

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
O1	北海道	介護分野	・面談を重ねながらその人に合った実習先を選定している。 ・グループワークは特に重要視しており、チームワークや自己理解、他者理解に力を入れている。 ・介護分野は人が足りないので、応募すれば、すぐに就職が決まってしまう。このため、早い段階では決めないで、実習先の状況なども十分観察し、長く働ける、自分に合った就職先を比較検討し、じっくり決めるようアドバイスをしている。 ・人件費が右肩上がりであるが、収入は平行線をたどっている。将来的には施設運営に不安を感じている。総収入の7割が人件費。人件費がこれ以上増えると、職場環境の整備にも支障が生じる恐れがある。 ・応募者が少ない状況を改善してほしい。7人程度以上集まらないと採算が合わないため、中止せざるを得なくなる。 ・職場見学推進費が最大1人当たり10,000円に下げられてしまった。従前の単価と月数に応じた基準に戻してほしい（@10,000円×月数）。	・老人介護に特化して、①障害者、②老人ホーム、③④訪問介護ステーションの計4か所で実習を受けた。とてもバラエティに富んでおり良かった。 ・カリキュラム比率（座学・実習）について特に問題はないと感じている。 ・実技の時間は短く感じた。基礎的なことは学べたが、やはり人対人なので、実際に勤務してみると、現場で理想と現実が異なるのだと感じた。	・仕事が無くなったら介護があるという風潮があり、社会復帰に介護などとも言われ介護の楽しさや必要性が伝わっていない。 ・コミュニケーション能力は社会経験の中で学ぶものであると考えているため訓練で養うのは難しいのではないかなと思う。 ・近年、賃金面は改善されてきていると思う。介護従事者を増やす意味で言うと、賃金面より介護という仕事のイメージアップの方が重要である。 ＜基礎的なデジタルリテラシー要素を含んだ訓練内容の必要性について＞ ・タブレットは、スマホの延長線上と考えるので、一般的に誰でも操作できると思う。したがって、パソコンスキルは、あまり必要がないとも言えると思う。 ＜業務負担を軽減する介護ロボットの導入状況について＞ ・介護ロボットは、利用価値のあるものと無いものがあるため、見極めが必要。自動で体位交換ができるマットは非常に有用であるが、金銭面の都合で大量に導入できていない。 ・補助金を利用し、浴槽に付けるリフトを数台導入した。今後も導入したい意向はあるが、現状としては金銭面の理由で導入が難しい。	ー	・カリキュラムにおける座学及び実習の配分見直しは、基準があり自由度は低く、適正な配分の感じ方は個人差があるため現状のままとする。 ・仕事の方向性（高齢者、障がい者等）を考慮した実習先の工夫の取組については、受講生の希望に沿った実習先の選定を引き続き依頼する。 ・グループワーク等コミュニケーション能力を培う訓練内容は、国の基準も配分を増やしており、施設利用者とのコミュニケーションは必須であるため引き続き効果的な実施を依頼する。 ・基礎的なデジタルリテラシー要素を含んだ訓練内容は、社内専用アプリ等の使用が多く、スマホ等のタッチ操作レベルで対応可能なため追加しない。 ・訓練コースの内容や効果を踏まえた受講動機強化のためハローワーク職員の訓練知識の向上を推進する。 ・職業訓練制度の周知のため、局HPの見直しのほか、各ハローワークでのSNS発信を推進する。また、関係機関連携により介護の魅力を広く発信する。
O2	青森	デジタル分野	●訓練実施にあたって工夫している点 ・Web系の就職口が限られているので、Officeソフトのカリキュラムも入れて幅広く業務に対応できる内容としている。 ●訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況 ・IT企業等の現役社員との意見交換の場を設けている。 ●訓練実施にあたっての国への要望、改善（以下は改善等への盛り込みはないが、協議会において制度要望として厚生労働省に報告すると説明した事項） ・公務員就職の場合も雇用保険適用就職にカウントしてもらいたい。	●訓練内容のうち、就職後に役立つもの ・エクセルの表作りができるようになり、パソコンの業務が苦でなく楽しく自信を持ってできるようになった。 ・HTML/CSS実習、IT活用実習は、今の業務がアプリ会社の商社チームで「アプリの売り上げ拡大」「数値の予想立て」「サイトの改善」等、訓練内容をほとんど使っている。 ・WordPress、Photoshopを活用した新たなWebサイトの作成。広告・パナーの作成に役立っている。 ●就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキル、技術等 ・生成AIを使えないと業務が不便である。 ●就職活動における書類選考時、面接時等において、受講した訓練内容を特にアピールした点 ・自分で作成したサイトを見てもらうため、ポートフォリオサイトにまとめてアピール。	●訓練による得られたスキル、技能等のうち、採用後役立っているもの ・表計算ソフト実習、ワープロソフト実習は、業務全体でパソコンを使用した事務処理、営業における資料作成に必要。 ・CRM/パッケージの開発、販売をしているが、その業務の中で、設計・開発ではWebの基礎知識やWebデザイン、画像加工などのスキルが役立つ。テストの導入支援では表計算ソフトの操作、顧客サポートではアプリケーション/活用が役立ち、カリキュラム全体として基礎知識として役立っている。 ・Webでの集客、アピールは不可欠。ターゲットを特定し、効果を検証し、WordPressを使用して常に情報を最新のものにしていく必要がある。	公的職業訓練（デジタル分野）アンケート調査（企業用） 調査時期： 令和6年8月 実施者： 青森労働局 調査対象： 青森局内ハローワークに、情報処理関連企業として事業所登録している166社 アンケート手法： Webアンケート 回答企業： 53社（回答率32%） ●採用上、重視するポイント コミュニケーション能力：69.8% ●デジタル分野の公的職業訓練について、業務で活用できるカリキュラム 表計算実務（3コース共通）52.8% HTML/CSS実習（3コース共通）56.6% ●3コースの訓練それぞれにおいて、50%以上の企業が活用できると回答したカリキュラムがあった。 【まとめ】 ●コミュニケーション能力向上が重要であること。 ●3コースの訓練ともカリキュラムが有効であること。	【デジタル分野の訓練修了者の就職促進】 - 訓練効果が期待できる内容は、引き続き実施していくことに加え、就職支援に資する工夫したキャリアコンサルティング。 ●就職活動にむけ、自ら作成したサイトをポートフォリオサイトにまとめてアピールする指導。 ⇒作成サイトのアピールにより、実務を想定したスキルの見える化を図り就職を実現する ●アンケート調査で多くの企業が採用にあたり重視する、コミュニケーション能力の向上。 ●職業人講話等における、現役IT企業社員との懇談によるデジタル人材のイメージの具体化。 ⇒プログラミングから運用、保守等において、円滑なコミュニケーションがとれることとデジタル人材のキャリアのイメージをつかむ 【デジタル分野の効率化への対応】 - 生成AIのプログラミングにおけるプロンプト。 ⇒AIに指示や質問を与えることで、プログラミングや開発の作業を効率化する機能に係る技能の習得

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
03	岩手	介護分野	・講師からの一方通行とならないよう注意し、グループワークやコミュニケーションは他分野の訓練の倍以上の時間をとっている。 ・介助を行う際には多様な正解があり、様々な指導者に教えを乞うことで技術の幅が広がる。実技演習においては特に介助手法に隔たりが出ないよう配慮している。 ・訓練1か月後に「訓練に慣れたか?」、「実習に向け心配なこと」、「就職の準備状況」について丁寧に確認している。 ・キャリアコンサルティングにおいて、職業訓練は就職が目的であることを強く意識させるようにしている。中には目的が「就職」から「パソコンのスキルアップ」などに代わってしまう訓練生もいる。 ・他にできそうな仕事がないからという理由で介護職を選んでいる生徒も少なくないため、就職活動に主体的に取り組んでいけないケースもあり、キャリアコンは表面的には出しづらい本音を吐き出させたり、精神的な障壁を取り除くための大事な時間になっている。	・医療的ケアは学んでも介護職員にケアさせる場所がほとんどなく、生かされていない現状がある。制度的な部分の見直しが必要。 ・生活支援の実習演習に時間をかけてほしい。	・コミュニケーション技術と認知症の理解が深く、高齢者と関わりを持つ際に受容・傾聴がしっかりできている。 ・介護に関する知識や技術、救命救急など多岐にわたるスキルを習得してきているため、即戦力に近い知識と技術があり、指導する際に理解が早い。 ・未受講の者と比較すると即戦力に近い知識や技術が身につけているため、技術の習得に関して評価のクリアが早く独り立ちのタイミングも早いため施設側として助かっている。 ・技術に関して、訓練生同士でモデル役になったりして技術を習得してきたと思う。しかし、コロナ感染症もあり現実的ではないと思うが、実際に施設での体験ができればコミュニケーション力や技術力が上がるのではないかな。	・特になし	・カリキュラムの改善というよりも、介護人材の育成のために介護業界に目を向けてもらうことが重要であり、関係機関と連携し幅広い世代を対象とした業界のPRを実施する。 ・職業訓練の周知、入校後のミスマッチを防止するため、積極的に訓練施設の見学会、体験を実施する。 ・訓練修了生の声、成功体験談を収集し求職者等に対して周知を行う。 ・訓練施設はキャリアコンサルティングを通じて訓練生との関係性を構築し、再就職支援に力を入れていることをアピールする。

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
4	宮城	介護・医療・福祉分野	・現場実習の時間をより多く確保することにより、様々な介護の現場を体験できるようにしている。 ・介護施設により特徴が異なるため、自身の希望に見合う施設への就職に繋がるよう、グループホームやデイケア等様々な施設の実習先を確保している。 ・常に最新の現場感覚が身に付くよう、講師の選定においては、現役で活躍している職人や医者・看護師等に依頼している。 ・実技演習時間を多く確保出来るよう、人数や教室の配分等工夫を図っている。 ・令和4年7月より雇用保険受給者が求職者支援訓練を受講できることが可能となり公共職業訓練と対象者の区別が曖昧になっている。特に委託訓練は訓練生確保に関しては苦労していると思われるが、再度制度の建付けをしっかりと見直しを欲しい。訓練期間が重複しないよう調整を希望する。 ・委託費の値上げ、最低人数保証を希望する。（選考後、開講前辞退がある。）	・職業訓練の制度や介護業界を幅広い視点で知ることができ、自分に合った働き方をしっかり考えることができた。 ・現場でのスムーズな対応は、介護に関わる基本的な知識と実技を習得できたことによるメリットである。 ・新たな事を始める時には勇気があるが、基本を学び挑戦させてもらった。生活の大半を仕事で過ごす、職について考え行動を後押ししてもらい心強かった。	・介護用語等を理解しているので、指導を必要とする場面が少ない。 ・言葉遣いや技術を始め、基礎的なことばかりでなく介護に対する考え方や根拠、対利用者との接し方について優れていると感じた。 ・認知症について学ぶことにより、症状の理解を促し声掛けなど正しい対応方法を身に付けていると感じた。 ・介護職へ従事する意識が高い。 ・職業理解が深まり、入職後の定着率にも良い影響がある。 ・見守りロボット、介護ロボット等の活用について、次々と新しいものが入ってくるため、それに対応した最新の知識を身に付けてほしい。 ・感染症予防の知識や入居者や家族への対応、特に認知症対応等困難事例について丁寧に教えてほしい ・訓練受講者を採用することは初めてだったが、大変満足しており、訓練受講者がより多くなればいいと思っている。 ・職場見学をきっかけに介護業務を知り、採用となる機会は貴重と感じている。 ・初任者研修修了の介護人材を確保する上で、職業訓練は欠かせない。	なし	・R7年度の公的職業訓練実施計画において、訓練内容の拡充・開催時期の調整を行う。 ・企業実習やグループでの演習等、就労現場を想定した、より実践的な内容をカリキュラムに取り入れていく。 ・ハローワークの求人部門、訓練部門との連携による、訓練修了者歓迎求人等の確保。 ・訓練実施機関とハローワークの連携による、求人情報や求人企業説明会等の情報提供。 ・訓練実施機関からハローワークの求職者に対する事前説明会や見学会の開催を推進。 ・引き続き ホームページ やSNS、関係機関との連携によるイベント等を活用した訓練の周知・広報を行い、職業訓練の認知度向上・活用促進を図る。
5	秋田	介護分野	○検証3項目に分類して以下のとおり 1【訓練内容等】 ・職場見学等による理解促進が必要となっている。 ・短時間労働希望の高齢者等が増加すると就職率が低下するため、就職率計上の見直しや、委託費加算等の国へ制度見直しを要望する。 2【就職支援】 ・就職に向けた不安解消の取組が必要（介護職理解に向けた取組） ・介護施設へ就職後の定着が課題となっている。 3【受講者確保】 ・地方自治体の協力を得て、情報の配架先拡大や機関誌掲載など、広報強化に取り組む必要がある。 ・受講者の高齢化へ対応が必要となっている（上記1と同じ）	○検証3項目に分類して以下のとおり 1【訓練内容等】 ・実技や実習を充実する必要がある。 ・幅広い職務内容を学びたい。 2【就職支援】 ・高齢者の介護施設での就労ニーズがあり、就業時間や就業内容の希望に合わせた求人条件緩和や見直し等の支援を希望している。 ・訓練を受講するだけでは職務内容や適性に不安があるため、職場実習や見学の時間の確保が必要。 ・待遇の割に重労働となっているため、待遇改善が求められるとともに、改善している施設の情報提供も必要。 3【受講者確保】 ・高齢者も含め、介護分野の職業訓練に興味は一定程度あるものの、介護人材確保のための施策等の認知度が低い。	○検証3項目に分類して以下のとおり 1【訓練内容等】 ・コミュニケーション能力やPC入力スキルを求める声が多かった。 ・高齢者は特に無資格での応募を避けるべきである。 2【就職支援】 ・60歳以上の未経験者でも資格があれば貴重な人材として前向きに雇用したい考えを持っている事業所があることから、効果的なマッチングが必要となっている。 ・職業訓練から就職後までイメージしやすい工夫を望む声があった（キャリアパスの見える化を含む）。 ・幅広い分野（通所や訪問介護含む）をイメージできる職場見学の工夫が必要。 3【受講者確保】 ・積極的な広報活動を望む声があった。 ・人材不足のため高齢者も雇用したいとする事業所や、高齢者の活躍の場はあるとの声があった。	○ハローワーク求職者をアンケート調査を実施（全県11所521名回答） ～アンケート実施結果概要 ・介護の職業訓練への興味あり3割 ・介護職員不足の認知度は8割強と高いものの、具体的な問題や国の施策等への認知度は低い ・高齢者の就業可能性高い（働き方の工夫で高まる） ○秋田県内・介護施設等へアンケート調査を実施（無作為100事業所へ案内） 回答：70事業所（回答率70％） ～アンケート実施結果概要 ・高齢者の活躍の可能性高い（年齢や短時間労働など採用条件を緩和できる回答もあり） ・コミュニケーション能力を重視	○検証3項目へ改善策を含め以下のとおり 1【訓練内容等】 ・職場実習を含むデュアル型の訓練を実施できるようR7年度訓練計画へ反映させる。 ・同様に、福祉用具専門相談員に係る内容を含む訓練など、介護分野の幅広い職務内容を学べるコース設定を検討する。 ・PC操作に係る内容の充実を実施機関へ依頼する。 ・高齢者受講時の就職率計上方法見直しや委託費加算等の制度見直しを本省へ要望する。 2【就職支援】 ・介護施設の訓練前や応募前見学（オンラインを含む）の実施を充実させる。 ・求職者ニーズに合わせた求人条件緩和交渉やきめ細かな就職支援に取り組む。 ・関係機関と連携した施策等周知の充実。 3【受講者確保】 ・ハローワーク職員への研修を充実させて、適格に受講斡旋できる能力やマッチング能力の向上を図る。 ・職業訓練情報の広報強化（Web広告等） ・地方自治体や関係機関へ広報協力依頼 ・介護系セミナーの拡充（社協や介護労働安定センターと連携） ・シルバー人材センターと連携した受講促進（ハローワーク生涯現役相談窓口と連携を含む）

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
06	山形	IT・デジタル分野	■ 訓練実施にあたって工夫している点 ・自社にWeb事業部門があり、現場で求められるスキル、人材は理解。また、顧客（発注元）から必要とされている企業ニーズを把握し、カリキュラムに反映・作成している。 ・企業内の業務効率化がどの程度従業員に求められているのか、現状を企業サイドから聴取した結果を踏まえ、システム作成や表計算の演習カリキュラムを増やす等、幅広く業務に対応できる内容としている。 ・IT業界では依然としてJava案件が多いため、カリキュラムを増やしている。 ・入校時における受講生の個々のレベル、及び習得度の差により、カリキュラムの進捗に影響が生じている。 ■ 訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況 ・時間外の相談体制を設け、講師による応募書類の作成や面接相談等の就職活動を支援。 ・個々の習得度に応じ、個別対応のサポートを行っている。 ■ 訓練実施にあたっての国への要望、改善 ・訓練コスト（光熱費、プリン代等）は上昇しており、奨励金の改善をお願いしたい。 ・Excel系と専門性があり教材費がかかるIT系が同じ委託費では厳しい。 ・資格取得の受験料が受講生の金銭的負担が大きいため助成制度を希望。	■ 訓練内容のうち、就職後に役立ったもの ・システム管理に従事している中で、MOS Excelエキスパートや関数計算は役立っていると感じている。 ・VBAを学んだことでプログラミング言語が何を示しているのか理解でき、業務に活かされている。 ・IT技術者として就労経験がなかったが、訓練受講でJava・Pythonの基礎知識を身につけたことで採用につながった。 ■ 訓練内容のうち、就職後にあまり活用されなかったもの ・活用されなかったものは特になし。 ・データベースの設計に従事しているなかで、直接的に使用しない・活用しないカリキュラムでも、間接的に全て役立っていると思われる。 ・担当業務でーからプログラミングする機会がないため（既存のソフト使用）Java Script基礎は活用されなかった。 ■ 就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキル、技術等 ・不足するスキルは特になし。 ・データベース言語であるSQLの知識。 ・Microsoft Accessの操作方法等の基礎知識を学ぶことが出来ればより役だったのではないかと感じている。 ・コーディングの進度が速くついていけなかった。また、講義時間が短く実習時間が長いため、内容理解が出来ないままの実習を減らし、講義を増やして欲しかった。	■ 訓練による得られたスキル、技能等のうち、採用後役立っているもの ・社内システムのVBAについて、採用者が知識や考え方を習得しており、即戦力として大変役に立っている。 ・CANVAのスキルを活かし、デジタルサイネージ用ポスターを作成する等、既に即戦力となっており、職業訓練のおかげでニーズのあった人材が採用できたと感じている。 ・プログラマーとして必要な知識（特にJava・Python）はカリキュラムにあり、役立つものと思われる。 ■ 訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル ・企業により求められるスキルは違うと思われるが、Microsoft Accessの基礎知識はカリキュラムに含めても良いのではないかと感じる（VBAでも対処可能であるが、基礎知識があれば対応業務も幅広く活かされる）。 ・採用職種に関連するカリキュラム（経理）があれば尚良かったと思う（総務システム管理の他、事務・経理を兼任しているため）。 ・ビジネスマナーやコミュニケーションスキル等、対人能力を重視しており、社会人の基礎知識を身につけるカリキュラムは必要。 ・訓練を受講したこと自体をストロングポイントとしてポートフォリオを提出する等、アピールできることが大切であると思う。		■ 効果が認められた訓練カリキュラムについては、引き続き実施とする。 ■ IT・デジタル関連求人の必要なPCスキルとして、プログラミング言語を必須とする企業が多いため講義の中心となっているが、それ以外のカリキュラムは企業の実況、求職者の目指すキャリアアプラン等により変化する。 → 受講者の年齢やレベルには差があり、訓練期間を含め個人毎に合わせたカリキュラム構成や、企業や求職者の希望・状況により必要とするカリキュラムは異なり、全て網羅する統一的なカリキュラム作成は困難であることを踏まえ、 ・求職者が自分のレベルを理解し、希望する職業に「就職が出来る訓練」であることを見極めることが出来る、詳細な訓練情報を訓練説明会や募集チラシに盛り込んでいく。 ・ヒアリング調査で多くの企業が専門的な分野の知識だけではなく、デジタル全般の知識やビジネスマナーの習得を求めている訓練内容に反映させることも必要。 ・実施機関の就職支援だけでは就職率の向上を図ることは難しく、ハローワークとの連携が不可欠であり、ハローワークで実施している「求職者担当制」により訓練修了者への就職支援の推進、及び「訓練修了者歓迎求人」や関連職種の「未経験者歓迎求人」等の求人要件緩和の取組みによる求人確保を併せて推進していく。
		デジタル分野 ITリテラシー分野	・市場、資格等の動向、就職率等の地域の動向に関する情報を把握した上でカリキュラムを設定している。 ・企業（実務界）が求めるスキルを検討し、想定される受講予定者が、訓練期間中に習得可能な内容であるように設定している。 ・WEB系で就職する場合はポートフォリオが採用側から重視されるため、積極的に支援をしている。 ・汎用的な基本アプリ以外に専門的なアプリが必要である訓練科では、アプリの使用契約料が高価であるので、委託費用の見直しを期待する。 ・高度な訓練は設備更新が必要であるなどの経費が掛かり、また最低賃金も上がることで奨励金の増額をして欲しい。 ・発達障害やメンタル的な疾患を持っている方などの対応に苦慮しており、支援のネットワーク形成が不十分だと捉えている。	・Java Script、Reactなどの言語ITバサポートレベルの基礎知識やWebサイトの応用知識・専門用語などを学んでおくべきと感じた。 ・AIを活用したスキルや動画編集を学びたい。 ・職業訓練を受講することで、身に付けたと思う知識・技能だけではなく、早期就職を目指したい思いが強くなり受講して良かった。一人で行き詰まってしまうことも相談できたことで前向きに就職活動が進められた。	・訓練期間中は決められた時間に勉強し、規則正しく生活していることもあり、就職後はルールに則って仕事をし長く続く方が多いと感じる。 ・職業訓練は職業意識を向上させ、ビジネスマナーを習得しており、即戦力として採用できるの訓練修了者を採用したい。 ・職業訓練でスキルを身に付けることは勿論のこと、就職後も向上心を持ってスキルアップしていくことを期待する。また、仕事を理解し成長する意欲があれば育成していく。 ・訓練カリキュラムがExcel・Wordなどのパソコン基礎の時間が多く、もっとホームページ作成の実践的な訓練をした方が就職後は役に立つと感じる。 ・ホームページの作成を外部に委託していたが、スキルを身に付けた訓練修了者を採用したことで内部で業務が行えて、とてもありがたく活躍している。	令和5年度訓練修了者及び修了者を採用した企業を対象にアンケートを実施 訓練修了者：303名送付、回収99名、回収率32.7% 修了者を採用した企業：43社送付、回収21社、回収率48.8%	・ITリテラシー科では、Excel講習の高度化、デジタル分野・ITリテラシー応用科ではビジネスマナー講習を望む声が多かったこともあり、カリキュラムに反映する。 ・デジタル分野では、プログラミング言語、Webツールの活用、アナリティクスなどの解説ツールの見方などの専門的な知識を求めている。企業のニーズにある程度応じられるような一定水準が確保できる訓練カリキュラムの設定が求められる。

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
8	茨城	営業・販売・事務分野	・ハローワークや民間の求人サイト、求人情報誌、新聞等から求人情報を収集し、地域ごとの特性を把握している。 ・職業講話の際にハローワーク職員による求人状況の説明を行っている。 ・ハローワーク担当者に対してアンケートを行い、訓練ニーズや求人ニーズの把握をしている。 ・修了生の声（就職後に感じた訓練中に学んでおくべき事）を生かし訓練に反映している。 ・訓練期間3ヶ月と4ヶ月で受講者の自己理解の差が大きいと感じているため、訓練期間は4ヶ月で設定している。 ・タイピングの速度や正確性確保のため、毎朝晩10分間タイピングのタイムを測定している。 ・訓練終了後（16時～17時頃）に教室を解放し、受講者が自由にPCを使える環境を提供。	・Word、Excelの基礎知識、タイピング（速打）についても就職後に活かせる。 ・PowerPointは業務で使用していないが、将来活用する可能性があり、基本が学べて良かった。 ・訓練期間3ヶ月コースの受講者から、あと1ヶ月から1ヶ月半長くなれば、自習や復習、遅れた者へのフォローなど、受講者全員のレベルアップにつながるのではないかと。 ・ビジネスマナー講習を開講当初に受講したが、訓練終盤に実施する模擬面接の前に受講すれば効果的ではないかと。 ・最新バージョンのソフトで受講できれば更に良かった。 ・キャリアコン担当者が就職に向け背中を押してくれた。 ・応募書類の添削や模擬面接などの支援により就職できた。 ・年齢と経験不足で不採用が続いたので、訓練実施機関による習得スキルの証明があればよかった。 ・ハローワーク内のデジタルサイネージで訓練の映像が流れていたため、興味を持った。 ・通所により生活リズムができ、他受講者との就職に関する情報交換や一人ではないという一体感が得られたため、通所でよかった。	・PCについては、基本的な操作ができる上で、ビジネスマナーやコミュニケーション能力、社会人スキル（自立・自己判断）の高い者を望んでいる。 ・個人情報扱うことも多いことから、その適正な管理、漏洩防止等の危機管理についての知識を求める。 ・社会人スキル（自立・自己判断等）を高めるため、受講者同士によるディスカッションの時間（受講者が仕事の失敗、成功事案、解決対処等を議論）を設けるとよいのではないかと。	・訓練実施機関に対して、ウイルス対策やデータ管理等危機管理についての知識等が習得可能なカリキュラム設定の検討を働きかける。 ・受講者のレベルが異なるため、個人毎にあわせたカリキュラム構成は困難だが、訓練実施機関に対して、放課後の教室開放や補習等、受講者の学習をサポートできる体制整備について働きかける。 ・コミュニケーション能力やビジネスマナーは業種・職種問わず重視されているため、座学に加えて事例検討のグループ演習等カリキュラムに盛り込むこと、ビジネスマナー講習実施のタイミング等の提案・推奨に努める。 ・訓練実施機関からのニーズを踏まえ、ハローワークからの求人情報、雇用情勢、面接会等の能動的な情報提供等、就職支援における訓練実施機関との連携を一層強化する。 ・外部委託のキャリアコンが効果的なものになるよう、キャリアコン前後に訓練実施機関の就職支援担当者との情報共有を徹底する。 ・訓練成果の証明となるジョブ・カードの「職業能力証明（訓練成果・実務成果）シート」を活用することのメリットを説明し、応募書類としての活用促進を図る。	
09	栃木	デジタル分野	・訓練内容については、実務を意識した内容、即戦力となる内容のカリキュラムを実施している。 ・資格取得だけでは即戦力の就職は困難なため、就職を意識して、教科書＋αの内容、教科書以上の技術を身につけられるように指導している。 ・就職支援については講師から実務的な話や心構えを伝えたり、就職した訓練生の声を張り出したりして、就職を意識づけるようにしている。 - また、就職の選択肢を広げるため、Web制作以外にプログラミングを学習するなど、幅広く学べるようにしている。 ・講師の確保については、知識や資格がある方の採用は可能だが、実務経験を伴った人材の確保は困難。自社職員のレベルアップが必要との意見があった。 ・キャリアコンサルティングの有資格者との面談、自己理解講座、企業説明会、人材情報誌の発行を実施している。 ・県内ではWeb関係の求人が少なく、実務重視の企業が多い。訓練受講生の年代と市場がかみ合わない。 ・訓練修了後の就職支援について、連絡が取れなくなってしまう訓練生への対応に苦慮している。	・パソコンの基礎知識や基本操作、Word、Excelなどが就職後に役に立っている。 ・希望職種と違う職種、部署が違うなどのため職業訓練で学んだことを活用できていないとの意見もあった。 ・Excelスキル（関数の応用、マクロ）、実務体験、実技時間を充実した方が良いとの意見があった。 ・社会人基礎力としてコミュニケーション能力、ビジネススキルのほか、作品のアピール方法、具体的戦略などの習得を希望する意見もあった。	・パソコンスキルについてはExcel、PowerPointの応用操作を学んだことによる業務効率化やパソコン操作に関する基礎知識やサーバーに対する知識が業務に役立っている。 ・仕事の覚え方が早く、業務習得意識が高い、積極的との意見もあった。 ・企業においては業務の効率化が求められており、Excel（マクロ、VBA、関数など）の知識、スピードのあるタイピングスキルが求められている。 ・社会人基礎力（報連相ができ、自発的に行動できる、コミュニケーションが取れる）を習得して欲しい。 ・企業の状況により、一つのソフトに特化したコースを希望する意見と幅広い言語を習得するコースを希望する意見があった。	〈訓練設定〉 ・Excel、PowerPointを使用した実践的な資料作成等のスキル習得。 ・実践的な実技制作課題等の実施。 ・基礎的知識・技能、社会人基礎力の向上を図ることができる基礎コースでの開講申請、新規参入を実施機関へ促す。 ・企業実習等を通じて、コミュニケーションを図り、企業内、チーム内における人間関係の重要性を事前説明するとともに、フォローアップにおいてもコミュニケーションのあり方の振り返りを行う。 〈就職支援〉 ・各自で課題等を話し合うグループワークの導入。 ・業界内での働き方の傾向や心構え等の予備知識の教示。 ・受講生の就職支援に求める内容が「自己理解講座、面接や応募書類作成支援等」であることを訓練実施機関へ周知し、内容の時間の充実を促す。 ・就職意識が低い訓練生の対応として、キャリアコンサルティングの時間を多く確保することが有用であることを実施機関へ周知する。	

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
10	群馬	介護分野	・現場を熟知した講師陣等による専門科目や実習先が多数あることは就職のイメージが付きやすく有益 ・訓練生の適正に合った実習先を決定。実習から就職、定着に結びつくケースもある。 ・実務者研修修了後、介護福祉士受検資格が得られるまで3年間の実務経験が必要となるが、なるべく多くの経験ができるグループホーム等、小規模事業所を薦めている ・介護職に未来があると思える人に来て欲しい。介護職は長く働け、有資格であれば就職に困らず、高齢であっても給料は下がらない。 ・資格取得に対する厚労省の助成金制度（人材開発支援助成金）について、手続書類が複雑、煩雑で申請に至らない。 ・「外国人（定住外国人）に特化した介護訓練コース」のニーズは、地域（太田・伊勢崎の東毛エリア）によってあると思われる。日本語理解、会話ができ、ひらがな・カタカナが書ければ可能ではないか	・介護業務に臨む姿勢において、利用者へのリスペクトを持って接することが大切 ・募集チラシの文字が多い（公共訓練） ・初めて介護職に就こうとするならば、自信をつける一歩として職業訓練をお勧めしたい。	・今後は、ＩＴ技術の習得が必要となる。利用者の食事量、排泄量の記録ソフトの利用など、ＰＣを使いこなせる人材が必要になってきている。職員の年齢層が確実に上がっており、ＩＴに抵抗がある世代も多いが、業務効率化・生産性向上をいかに図るかが課題となっている ・事前の研修は非常に重要。在職者に対し会社負担で有料講座を受講させてもいるが、最低限の知識を身につけていた方が体得するのに有利。また、知識があることで退職が減少する。介護職は経験がものをいう世界のため長く勤めていただきたい。 ・外国人とのコミュニケーションはすべて言葉にしないと伝わらない。日本語学習について施設内では対応困難のため公的サポートがあるとありがたい。	・訓練開始時期や開催地の調整、計画数の見直しを行った結果、求職者支援訓練の応募倍率は、現状で改善が見られた。	・在職者のスキルアップについて、「人材開発支援助成金」の周知、事務手続サポートが必要。 ・委託訓練による外国人（定住外国人）向けの介護分野訓練を、地域ニーズにより検討。
11	埼玉	人手不足分野	・受講生が過去に比べ近隣エリアからしが集まらず定員の確保が難しい。早期から受講生に就職への意識付けを行っているが、就活に積極的でない受講生が増え意識向上にも苦慮している。 ・介護や保育の訓練については、職業人講話や施設スタッフのアドバイスを通じ受講生が就職に向け動くきっかけ作りをしている。 ・施設見学や実習を通して利用者との対話を現場で実感してもらい、仕事や介護職への理解を深められる事から、施設見学を強く勧めている。 ・県内ハローワークに出向き保育士の募集広報や協力依頼している。 ・年長者は経験からの主張が強く、若年者は人との関わりが苦手等、多様な受講生の個性に合わせ指導しており、訓練生と一般学生と一緒に学ぶため、クラスの雰囲気等には随時注視している。 ・本社HPへの情報掲載で広報しているが潜在的な対象者に届いていないと感じ、SNSで広報も検討したいが人手不足。 ・前年度CAD科として応募しておったが、次年度インテリアデザイン等なじみのある要素を取り入れたことで応募数の増加に繋がった。 ・指定来所日の設定は受講生にとって就職活動する上で有効と思われる。	・介護実習では、できる限り就職を希望する職場での実習を希望する。 ・実際に介護の職場で、必要となる技術を習得できる様に指導願いたい。 ・介護サービス科だが座学が多く、実技の時間が短いように感じた。 ・建築の職場では、まだまだ「かんな」「のみ」等を使用する職場もあるため、刃物の研ぎ方についてもっと訓練の場でもっと学びたかった。 ・溶接の知識・技能はほぼゼロの状態から受講したので授業について行けるか不安であったが、訓練後に補習の時間も頂き、基礎から教えてもらったことで就職後も苦手意識無く取り組めている。 ・職業訓練説明会で介護職の方から話を聞いたので受講に繋がった。 ・介護の実習先で特養にいった経験を踏まえ、就職先を決めた。 ・保育士を目指す中で委託訓練を知り、訓練施設見学を経て福祉全般に強みを持つ学校を選んで受講申込みした。 ・HWでの職業相談の際に志望をよく聞いて貰い委託訓練の紹介、訓練施設見학을案内され受講を決めた。 ・建築CADオハ関係で就職したがなかなか採用に至らず、事務職まで幅を広げた。	・建設関連分野は、慢性的な人手不足であり、受講生の紹介が少ないため地域を問わず紹介して欲しい。 ・基本的な知識・技能が身についている。即戦力になる。仕事への取り組みが良い。資格や免許を取得している。生活習慣が身についている。 ・コミュニケーション能力やチームワークが身につけていると良い。 ・板金加工など溶接における基本的な知識や技術を有しており、経験者特有の癖が無いことを評価し採用した。 ・ポリテク修了生は経験者枠での採用を今後も検討していきたい。 ・基礎的な勉強や、介護に関わる考え方（概念・理念）を理解して就職してもらえると良い。 ・施設を知ってもらい得る要実習の機会を増やして欲しい。 ・モラルや良識があり、コミュニケーション能力が高い方。 ・保育所等の責任者が新規採用よりも若いことが多いため、組織・チームでの働き方を学んで欲しい。 ・受け答えがしっかりしており、訓練施設で学び直す意識がある方なので即戦力として期待できた。	・カリキュラム内容の細分化、訓練レベルの細分化 ・訓練中にグループワーク等、実際にコミュニケーションをとる機会を設ける。 ・職場見学、実習の場を増やし、実践形式での実力のつく講義内容の充実。	

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
12	千葉	①介護分野 ②デジタル分野	【介護分野】 ・年配の受講者が多い為、介護記録や訪問計画表等の作成におけるPC利用に備え、Word・Excelの訓練も取り入れている。 ・資格取得が目的で、就職活動をしない受講者がいる。 ・介護業界は様々な業態があり、雇用形態も様々である。就職の扱いについて、週20時間以上であること、「4箇月以上」の雇用期間の雇用契約による雇入れといった条件の見直しを検討して欲しい。 【デジタル分野】 ・素養を身につけてもらい、専門性を使いこなせる人材の育成を目指している。 ・プログラミングは広く需要があるため、カリキュラムで最も重視している。 ・授業内容を盛り込み過ぎるといてこれない生徒が出てきてしまう。 ・専門的な分野でありカリキュラムがハードになりがちなため、就職活動が後回しになる傾向がある。 ・「WEB関係＝WEBデザイナー＝在宅勤務」、「IT＝プログラマー＝在宅勤務」といった考えを持った方もおり、求人応募に結びつかないケースもある。	【介護分野】 ・実技訓練は役立った。利用者の立場になって経験することで、導線や振動（されると不安になること）等、気づかなかったことを知ることが出来役立っている。 ・Word、Excelの訓練は、介護記録に使用するため、役立っている。 ・現場でやらせてもらえないので、医療的ケア（喀痰吸引等）は活用されていない。 ・ICT（環境因子等）も、現場で考えている余裕がなく、活用されていない。 ・知識として理解していたが、実践では経験が浅く、経験者と力量の差を感じる。身体介助の訓練時間をもっと取って欲しい。 ・訓練で学ぶ知識や技術だけでなく、介護職はコミュニケーション能力が必要。 【デジタル分野】 ・幅広くITの知識全般を学んだことで、結果的に引き出しが多くなり、活用されなかったものは無い。 ・SNSを中心とした広報業務に対応するため、動画編集に関する講義があったらいいと思う。 ・カリキュラムの進行が早く、授業についていくのが大変。 ・訓練機期間はもう少し長い期間が欲しい。	【介護分野】 ・入職時から基本的な知識や実技をしっかりと習得しており、基礎理解が出来ているので、一から教える必要がない。実技をしっかりと学んでいる。 ・基本をしっかりと学んでいるので問題は無いが、現場では、利用者やスタッフとのコミュニケーション力が特に重要。 【デジタル分野】 ・スキルで募集している。求人の業務内容があり、それに必要なスキルを有していることが前提となる。 ・写真・図形編集ソフト（Illustrator、Photoshop等）について、訓練で一層習得しておくことが望ましい。	【デジタル分野】 ・新入社員デジタル人材育成（新人研修）を実施している「公益社団法人千葉県情報サービス産業協会（CHISA）」に、IT分野において求められているスキル、当該スキル習得に必要な訓練内容について、ヒアリングを予定している。	【介護分野】 ・基本的知識の面で評価は高いので、現場にスムーズに入れるよう、実技訓練の一層の実践化・重点化、及び他者との関わりの中で学んでいく力をつける訓練（講義形式だけではなくグループワーク等）が必要。 ・入職者は、家族等の介護経験を通じて興味を持った方が多い。仕事内容がよく分からず興味が持てないことが、入職者や受講者が少ない要因の一つのため、訓練募集の際、介護職の具体的な情報に触れる機会が必要。 【デジタル分野】 ・幅広く学ぶことで引き出しが増え就職後も役立ち、就職先の幅を広げることにつながっている一方、専門的内容でカリキュラムもハードで進行が早く、ついていけない受講生が出てしまう。カリキュラム量と進行のバランスを取ることが必要。 ・企業は、業務を行える水準のスキルがあるかを重視しているため、単なる座学に終わらず、業務と結びつけながら知識習得が出来るようなカリキュラムの検討が必要。 ・WEBデザイン分野において、写真・画像編集ソフトの習得二コースが就職後あり、カリキュラムの参考としてもらう。

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
13	東京	介護分野	・介護職員初任者研修だけでなく訓練修了後の就職先の選択先を広げるため、福祉用具専門相談員講習のカリキュラムを設定（毎回20%～30%は介護用品レンタル販売会社等へ就職しており有効なカリキュラムと捉えている。） ・就職したときにミスマッチで離職しない工夫として、職場見学、教室では体験できない実習先での入浴・排泄介助補助を経験して介護現場の現実を受け入れるよう促している。 ・自分に合った施設、働き方を見つめられるよう授業以外でも自発的に施設見学に行くことを推奨している。 ・広報として所定の募集案内とは別に、受講生募集チラシ（訓練内容の詳細・特徴等）の作成を検討している。 ・管轄ハローワークを始め複数のハローワークや区役所等と連携して、説明会を実施している。 ・訓練施設見学会を多く実施することが受講者獲得につながると感じている。	・技術的なことだけでなく、講師の経歴等がバラエティに富んでいて、業界のいろいろな話を聞いたことが役立っている。 ・聞いたり体験しないと分からないことが多いので、企業実習は重要と感じた。 ・勤務している施設は細かく勤務時間を設定しているが、未経験の方は夜勤が必須だと思っているたり、労働時間が長いと感じているのではないかと。多様な働き方が出来ることをアピールしてはどうか。 ・訓練の制度はハローワークに行くまで知らなかったなので、広報は重要だと思う。	・介護業界の社会的貢献や大変さを理解した上で選考を受けているため、訓練未受講者と違い覚悟を持った方を採用できる。 ・基礎知識を有しており、専門用語を分かっていることは採用後のスタッフ間とのコミュニケーションに大いに役立つ。 ・仕事内容、勤務時間を細分化することで正社員の替わりにパート社員・契約社員を多数採用することで人手不足に対応する。 ・企業が求める求人条件と求職者が希望する就業条件が相違してミスマッチが起きている。⇒マッチングが重要。	特になし	○認定申請の説明会・相談などの場面において以下のことを情報提供する。 1 テキスト学習以外に、講師（業界経験者）から体験談を聞くことや、職場見学・企業実習を通して、介護現場の現実を認知して就職活動を進めることができる。 企業実習は、訓練受講生にとって訓練施設では学ぶことが出来ない体験であり、現場の厳しさを知りつつ、介護職に就く意思を強固にするものであり、企業実習先の開拓、企業実習を実施することが有用である。 様々な形態の施設で企業実習、職場見学をすることは、就職先の選択肢を広げることにつながり、就職先企業にとっても、ミスマッチを防ぎ、現場イメージを持つ者の採用契機となり、採用後の職場定着にも効果的である。 2 定型の入校案内だけでなく、受講生募集チラシを実施機関ごと個別に作成する。 ハローワークで開催する訓練セミナーにおいてコース説明を行うことや、施設見学会を数多く実施すること及びSNS等の活用により幅広く広報する。 3 訓練実施機関等のキャリアコンサルティングや就職支援時において、多様な働き方（重労働、夜勤などのイメージを持っている求職者に対し、勤務体系は施設によって異なること、介護現場だけではなく販売やドライバーなど関連の職種もあること）について情報提供や助言を行い、就職の選択肢を広げる支援を行う。 ○ハローワーク等における相談場面において以下のことを情報提供する。 ハローワーク等で、 ①正社員を募集する事業主に対して、パート（短時間雇用保険加入要件を満たす）の求人票を作成するメリットを説明し、求人開拓を行う。 ②職業紹介の場面においては、重労働、夜勤などのイメージを持っている求職者に対し、勤務体系は施設によって異なること、介護現場だけではなく販売やドライバーなど関連の職種もあることを助言、提案する。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
14	神奈川	デジタル分野	【訓練実施にあたって工夫している点】 ・企業によって使用しているソフトや求める知識・技術が異なるので、「広く浅く」知識を身につけることができるようにカリキュラムを組んでいる。 ・短期間の職業訓練では多くのスキルを極めることはできないので、企業の声などを参考に、汎用性の高いスキルに絞り、それを極めることができるようなカリキュラムを実施している。 ・Webを取り扱う関連職種への就職やアシスタントとしての就職も想定して、ExcelやPowerPoint、マーケティングの授業もカリキュラムに取り入れている。 ・クライアントとの交渉を想定し、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めるためのグループワークを取り入れている。 【キャリアコンサルティングの状況】 ・就職活動が思うように進んでいない受講生には、前職と訓練内容をかけ合わせた就職先を見い出せるような支援を行っている。 【国への要望、改善して欲しい点】 ・訓練内容やデジタル業界を理解せずに申し込みをしてくる人が多いので、訓練実施機関は事前説明会などで、ハローワークは窓口での相談時に、この点を詳細に説明する必要がある。	【就職後役に立ったもの】 ・HTML、CSS、Illustrator、Photoshopなど、まんべんなく学ぶことができてよかった。 ・就職してから基礎的な知識を頻繁に使うため、ITの基礎、コンピュータ・リテラシーを学べたのはよかった。 ・面接練習やプレゼンテーションは就職活動をスムーズに進めていくのにとても役立った。 ・IT関係の実際の現場の状況について授業中に教えてくれたのは、今となってはとてもよかった。 ・キャリアコンサルティングでは、厳しい状況の中でも、いつもWebの業種に就くことを後押ししてくれたので心強かった。また、応募書類のチェックや就職支援も十分やってもらい、とてもありがたかった。 【訓練で学んでおくべきスキル】 ・職業訓練では、1つの知識・技術をしっかり身につけるというよりも、複数の知識・技術を広く浅く身につけておいた方が就職には有利に働くと思う。 ・ネットリテラシーやセキュリティの保護に関することについて、攻撃があった時の対処方法など、実践的な授業があるとよかった。 ・どうやって組み立ててサービスになっていくのかといった、全体の設計がわかる授業があるとよかった。	【採用後役に立っているもの】 ・最低限のツールが使えること。「コードでこれを書いたらこうなる」といった基礎的な知識。 ・Java言語、SQL（簡単なselect文）、統合開発環境ツール（エクリプス）、WordPress、Illustrator、Webページ制作 【習得しておくことが望ましいスキル】 ・コーディングなどの基本的な大枠の理解。最初からコーダーと共通の言語で話をすることができるため。 ・できるだけ資格を取得しておくこと。訓練校によってカリキュラムが違うので、資格を持っているとその訓練校でどのようなことをやってきたかわかりやすいし、顧客に信頼される。 ・Excel（関数、検索、ショートカット等。大量のデータを取り扱うので。）、PowerPoint（プレゼンが多いので。） ・訓練では、より多くのものを広く浅く学んでおいた方がいい。その方が入社後の習得スピードが圧倒的に速い。 【訓練修了者に期待していること】 ・基本的に訓練修了生は社会人としての経験も持ち合わせているので、コミュニケーション能力やトラブル対応力を持っていることを期待している。 【その他の意見】 ・職業訓練ではたくさんのことを短い時間で詰め込まれるので、もう少しゆとりある教育をしてもらえるとありがたい。 （例えば、訓練期間を3ヶ月から6ヶ月に伸ばすなど。） ・採用にあたっては、ポートフォリオの出来が大きく影響するので、訓練実施機関はその点を重視した方がよい。		【訓練カリキュラムの強化・見直し】 （1）基礎的知識を幅広く習得する ・どの会社への応募、どの会社での就職にも対応できるようにするため。 （2）コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を向上させる ・デジタル業界は顧客との交渉やチームで取り組む業務が多いため。 （3）ネットリテラシー、情報セキュリティに関する知識及び実践的な対応力を習得できるようにする ・業務上、セキュリティインシデント発生時の迅速かつ適切な対応が求められるため。 （4）ポートフォリオ制作に重点を置く ・企業側は採用選考時にポートフォリオの完成度を重視しているため。 【ハローワークにおける受講希望者のニーズと訓練内容のマッチングの強化】 以下2点を強化し、訓練受講に関するミスマッチを防止して就職率向上につなげる （1）ハローワーク職員のレベルアップ ・デジタル関係の研修等実施とハローワーク職員向けの訓練実施施設見学会等への一層の参加促進により、ハローワーク職員のデジタル分野に関する知識の全体的な底上げを図り、受講希望者のニーズに合致した訓練コースを正確に案内することができるようにする。 （2）訓練受講希望者による積極的な情報収集 ・訓練受講希望者は訓練実施機関見学会等に積極的に参加し、労働市場の動向の把握や疑問点の解消に努める。ハローワーク職員は訓練受講希望者に対する見学会等への参加の勧奨を強化する。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
15	新潟	デジタル分野	【JavaScriptを主に習得する訓練コース】 ・訓練では、実習ベースのカリキュラムになるように工夫した。 ・デジタル業界以外の企業でも、Webを活用したサービス等の企画・開発・運用等ができる人材を必要としているため、訓練ではJavaScript、HTML、CSS、Laravelフレームワークや、Linuxサーバー等のスキル習得を目指し、就職にもつながったと思う。 ・デジタル業界以外の企業で、インターネットを活用、プロモーションできる人材、デジタルスキルを活用して業務改善を進めていく人材の育成も目標とした。 【Pythonを主に習得する訓練コース】 ・Pythonを用いたデータ分析手法を基礎から学び、機会学習やAIの概念、分析したデータの活用方法などを訓練内容としている。 ・訓練で学んだスキル等は、プログラミングを担当する職種のほか、事務、営業、販売、企画など他職種や、企業でのIT・DX導入に携わる業務で活かせることを目標にしている。 ・訓練期間中に企業担当者を招いて企業説明会を行い、企業理解・仕事理解を促している。訓練修了生と県内企業とをつなぐ取組が重要だと思っている。 【PHPを主に習得する訓練コース】 ・企業からは、基本情報技術試験の資格取得に挑み、学んでいるプロセスを評価されている。訓練を通じてIT業界で仕事をするうえでの共通言語を学べる。 ・プログラム言語はPHPを基礎から学び、一つの言語をしっかり理解できれば他の言語にも応用が効く。 ・システム開発演習では、自分で作りたいアプリ、システムを作成し、それをポートフォリオとして就職活動で応募先に提出するよう指導している。 ・職業訓練の募集チラシを見ると、表題にプログラミング科（PHP）、プログラミング科（●●●）など、プログラミング科という名称が大きく記載されており、これではプログラミングに興味がある人にしかチラシを見てもらえないのではないと思われる。訓練で学んだスキルはプログラム開発職以外の事務、営業、管理などでも役立つので、求職者への周知を工夫した方がよい。	【JavaScriptを主に習得する訓練コース】 ・Webシステム開発に必要なJavaScript、HTML、CSS、PHPのプログラミングの知識に加えて、Linuxサーバーを基礎から学ぶことができて有益だった。現在はサーバーの構築・運用等をしているのでLinuxサーバーの知識・スキルは実務で役立っている。 ・訓練での勉強をきっかけに、自分でも学習を深め、基本情報技術者試験を受験し合格することができた。 ・訓練後に希望通りIT業界に就職できたが、他の訓練生の中には、実務経験がないため就職活動で苦戦している人もいたので、就職支援を強化した方がよいと思う。 【Pythonを主に習得する訓練コース】 ・企業向けのAIシステムの営業に就職しており、訓練で学んだAIの基礎から、AIの活用方法、Pythonによるデータ分析方法などがとて役に立っている。顧客との折衝や質問に対しても訓練で学んだ知識を活かしてスムーズに対応できている。 【PHPを主に習得する訓練コース】 ・基本情報技術者試験の取得はITの基本的な知識を有することの証明となり、履歴書にも書けるので就職活動の武器となった。 ・PHPのプログラミングは、就職後に他言語を学習するときも基礎的な考え方は同じで役立った。また、データベース（SQL）の学習も実務において大いに役立った。 ・企業実習では、テスト業務を経験した。この経験はIT業界初心者が行う業務にかなり近いものであったため、入社後にスムーズに業務に適用でき役立った。JavaScript、HTML、CSSなどのフロント分野の知識やオブジェクト指向、フレームワークについてもより深く学習を行えたら良かったと思う。	【JavaScriptを主に習得する訓練コース】 ・職業訓練で習得したスキル等に加えて、基本情報技術者試験も取得していたので、ITに関する基礎的な知識・スキルと学ぶ意欲、熱意を評価した。 ・基礎的な知識・スキルを有しているため、一から教育する必要はなく、採用した企業にとっては大変有り難い。 ・訓練で身につけたサーバー、ネットワークの知識は特に役立っている。 ・JavaScript、HTML、CSS、PHPなどの職業訓練は有益だと思うので、ぜひ継続してほしい。自社も人手不足なので訓練生をはじめIT技術者とのマッチングの機会を設けてほしい。 【Pythonを主に習得する訓練コース】 ・通常であれば、AIの基礎などを一から教育しなければならぬが、それらを職業訓練で学んでいる。 ・C言語やJavaへの需要はまだまだある。 ・Pythonはじめ、JavaScript、HTML、CSSのフロント分野からPHP、SQLなどバック分野の知識があると良い。 【PHPを主に習得する訓練コース】 ・基本情報技術者試験の取得は、訓練に真剣に向きあい真面目に勉強し、この業界で働きたいという意欲の証明となる。将来の種まきだと思い、積極的に採用している。訓練でIT全般の知識・スキルを身につけることは有益である。 ・訓練施設内での企業説明会や企業実習の受入をきっかけに訓練生の採用につながったことがあり、大変有意義な機会なので、訓練生と企業との接点が持てる機会をもっと設けるべきだと思う。 ・今後は、Web系（HTML、CSS、JavaScript）、PHP、c言語、java、データベース（SQL）等のスキル習得が必要だと思う。ITSS2レベルを目指すべきではないが。	【デジタル分野の企業を対象にアンケートを実施】 ・職業訓練でPHP、Python等の専門的なカリキュラムを設けることは、企業の人材採用にあたって「有益」又は「少し有益」と回答した企業は86.9%だった。 ・今後職業訓練のカリキュラムに取り入れた方がよいデジタル分野の知識は、①「システム開発知識」、②「データベース知識」、③「アルゴリズム・プログラミング知識」42.1%、④「ネットワーク知識」、⑤「コンピュータ基礎知識」、⑥「ネットワークセキュリティ・情報セキュリティ知識」の順に多かった。 ・今後職業訓練のカリキュラムに取り入れた方がよいデジタル分野の実技では、①「データ分析・データ活用（Python）」、②「データベース演習（SQL）」③「JavaScript・HTML・CSS演習」、④「PHP演習」の順に多かった。 【デジタル分野の訓練修了者にアンケートを実施】 ・職業訓練の内容については、「満足」又は「まあまあ満足」と回答した者は71.8%だった。 ・職業訓練で学んだ知識・技能が、現在（直近）の仕事に「役に立っている」又は「少し役に立っている」と回答した者は66.7%だった。 ・職業訓練を受講する前に、「デジタル業界に勤務」していた者は18.4%、「デジタル業界以外に勤務」していた者は81.6%だったが、職業訓練修了後は、「デジタル業界に勤務」している者は38.5%、「デジタル業界以外に勤務」している者は51.3%だった。 ・企業実習なしの職業訓練コースの修了生のなかで、職業訓練のカリキュラムに企業実習が「あった方がよかった」と回答した者は65.2%だった。 ・企業実習付きの職業訓練コースの修了生のなかで、企業実習は「満足」又は「まあまあ満足」と回答した者は56.3%だった。 ・職業訓練で学んだ知識・技能が、就職活動に「役に立った」又は「少し役に立った」と回答した者は64.1%だった。	・新潟県、機構新潟支部、新潟労働局において、デジタル分野の職業訓練における仕上がり像の共有・見える化を図り、効果的な訓練カリキュラムの設定、求職者への周知を行う。 ・訓練実施施設に対しては、効果検証の結果を基に、訓練効果の向上が期待できる以下の項目や、訓練の魅力を求職者に周知するための「訓練プラス情報」の作成、訓練の仕上がり像等に応じた訓練コース名の設定等について働きかけを行うための啓発資料を作成し、訓練説明会や実施機関の訪問指導、実施機関開拓の際などに周知を行う。 ①演習や企業実習等に十分な時間を確保し、実践的なスキルを学ぶ機会を設ける。 ②演習等においてポートフォリオ（作品集）等を作成し、就職活動に活用。 ③訓練の仕上がり像に応じて企業の採用担当者に評価される資格取得を目指す。 ④訓練実施中に企業担当者を招いた説明会等を行い、訓練生の企業理解等を促す。 ・求人事業主に対しては、効果検証の結果を基に、訓練修了者の採用事例や訓練修了者及び採用企業のコメント等を掲載した啓発資料を作成し、デジタル分野の求人事業主をはじめデジタル分野以外の求人事業主に対しても、訓練修了者の採用を促す働きかけを行う。

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
16	富山	デジタル分野（デジタル業界以外の業界に就職した訓練修了者を対象に検証）	(1) - 受講者の理解状況に合わせて、個別に演習の課題を変えている。具体的には、理解度の高い受講生には応用課題、理解度の低い受講生には復習課題を与えている。 - 受講者の入校時のスキルはまちまちであるため、最初の1週間で以降の授業についていくためのP Cの基礎力を身につけるカリキュラムとしている。 - カリキュラムの内容を見直し、最新のソフトに関する技術が身につけられるようにしている。 (2) - 訓練中から、幅広い業界の求人情報の提供を行っている。 - 業界外への応募時に、求人の業務内容になくても、習得したデジタルスキルをPRするよう指導している。 (3) - 求職者支援訓練のフルオンライン訓練は全国から受講があるにもかかわらず、県の計画数内となっている。フルオンライン訓練の割合が増加すると県内で必要な訓練コース数が確保できなくなる。フルオンライン訓練の枠のありかたを検討してほしい。 - ITパスポートの試験が受験できる学校が県内2カ所しかなく順番待ちとなっている、受験できる施設を増やせないか。	(1) - P Cの基本的なスキルを取得できた。P Cスキル要となっている求人へ自信をもって応募できるようになった。 - 会社のチラシ作成業務の時にデザインソフトの受講内容が役に立った。 - P C理論は、会社のシステム利用時に注意すべきことが理解でき、間接的に役に立っている。 (2) - 訓練でいろいろなソフトの勉強をし、プログラミングの基礎等を学んだことは、会社で別のソフトを使用するとき役に立っている。 - H P関連の業務がなく、デザイン関連の内容は役に立っていない。 (3) - データベースソフトの使用方法は、学んでおきたかった。 - 実際のソフトの利用して業務を行っていると、実践的な演習がもっとあればよかったと感じる。 (4) - 職業人講話で、デジタル以外の業界の人による活用状況が聞きたかった。 - 訓練中に取れる資格にITパスポートがあったが、受験しなかった。就職後に資格を持っていると処遇が有利なることを知ったが、受講中に情報として知っていれば受験できたので残念だった。	(1) - ワード・エクセル・メールなどのP Cの基本的なスキルは業務で使用している。 - 複数のソフトの操作を習得したことで、汎用的なP Cスキルを身に付けており、自社使用ソフトへの対応力が高い。 - デザインソフトのスキルは、自社店舗の店内の案内チラシ等の作成に役立っている。 (2) - 業務の記録をデータベース化するにあたりデータベースに関する知識や技術があるとなおよい。 - 自社で所持している者がいない、最新のソフトに関する技能が使用できると、新たな広告展開に役立つ。 - 他の業務と兼任する為、P C関連以外の担当する業務に関する知識や技能があるとなおよい。 (3) - 汎用的なP C関連のスキルを持っていることは採用の前提としている。 - デザインを行う業務のため、デザインソフトが一定レベルで使用できることを期待している。 - 新規のP C関連の業務を導入するにあたり、先頭立って技能を習得し、他の従業員へ指導や伝達する役割を期待している。	特になし	デジタル分野の訓練修了者の、幅広い業界への柔軟な職業選択を支援するために、以下の4点の改善促進策を提案した。 ①多様化しているIT人材へのニーズに対応する力を強化することを目的として、デジタル分野の訓練カリキュラムにおいて、課題に対する解決策を自ら探して実行する形式の演習を実施する。 ②幅広い業界でのデジタル関係スキルの活用状況を知るために、デジタル業界にこだわらない多様な業界の職業人講話を実施する。 ③ハローワークや訓練実施機関において、デジタル関係のスキルや資格の、デジタル業界以外での活用状況を確認し、その活用状況を訓練希望者や修了者へ提供する。 ④希望する業界や職種が必要とされるデジタル関係以外のスキルについても、ハローワークにおいてより細やかに情報提供を行うこととし、必要に応じ自ら学びを行うリススキリング支援策の周知・勧奨を実施する。
17	石川	デジタル分野	- 訓練修了者の端で訓練を受講する者が一定数存在する。 - 委託費等の金額を引き上げてほしい(教材、設備、講師の質などの確保が困難となり、様々な面で受講生の不利益につながる)。 - 能登地区は地震の被害により、訓練を修了しても就職に結びつかなかったり、デジタル分野の訓練を受講しても能登地区には受け入れ企業がほとんどないことから、就職率要件を達成できず奨励金を受給できないケースが多い。地域ごとの事情を考慮して特別措置を設けてほしい。 - 求職者支援訓練において、新規参入枠の上限を拡大してほしい。 - IT・デジタル人材育成には複数の訓練受講が有効と考えられるため、複数コースを受講できる道も視野に入れるべき。 - 精神・発達障害を持つ受講者が増加しており、障害者への対応等について、訓練実施施設の講師に学んでほしいが、「障害者差別解消法における合理的配慮」に係る動画やオンラインで学べる講座を知りたい。	- 模擬面接や履歴書作成指導等、親身に相談に乗ってもらえ、役に立った。 - キャリアコンサルティングもここまでやってくれるんだと感じた。 - 転職に関するネガティブな考えを前向きに捉えることができるようになった。 - 職業訓練を受講することができてよかった。 - 学んだ内容は仕事の役に立っているが、一部使っていない内容もある。 - 訓練で培った知識がダイレクトに仕事に活かせる。	- ビジネスマナーや社会人スキルを学ぶ時間をもう少し増やしてほしい。 - 情報セキュリティ教育を実施してほしい。 - 仕事に対する考え方について、全体的に受け身の方が多いため、より前向きなマインドを身につけてほしい。 - 訓練でスキルが身に付いていることが助かる。 - 求人応募時に訓練カリキュラムを提示するよう、訓練受講者に指導したらよいのではないか。 「ITパスポート」や「基本情報技術者」などの資格が取得できるコースを増やしてほしい。	無	【訓練制度の周知】 訓練実施機関を通じて訓練受講者の生の声を積極的に収集するとともに、SNS等を活用して職業訓練制度の周知に取り組む。 【訓練の質等の確保】 表託費や奨励金の更なる引き上げを本省に要望する。 求職者支援訓練の新規参入枠上限の拡大、就職要件の緩和、連修受講要件の緩和を本省に要望する。 障害を抱える受講者への対応について、関係機関と連携し、活用できる制度やツール等を紹介・提供していく。 「ITパスポート」「基本情報技術者」等の資格が取得できるコースについて、既存訓練の定員充足率等を把握の上、必要に応じて訓練実施機関の開拓を行う。 【カリキュラム】 訓練実施機関の意向を踏まえながら、企業が必要としているビジネスマナー等の訓練時間を増やすこと及び訓練内容の更なる充実を図っていく。 就職後に求められる情報セキュリティに関する研修を盛り込めないか、訓練実施機関に提案していく。 【就職支援】 就職後の貢献度を高めるため、キャリアコンサルティングにおいて、仕事への取り組み方等、訓練受講者の意識醸成を図る。 訓練受講者に対し、あらゆる機会を捉え、訓練カリキュラムを求人者に提示するメリット（訓練で得た知識・スキル等が伝わりやすくなる）を伝え、積極的な提示を勧奨する。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
18	福井	デジタル分野	・求職者支援訓練を申請しようとする場合、県の委託訓練の期間と隣接していないか、被っていないかを考慮するのが難しい。 ・コース名が似通っているのに、県の訓練と求職者支援訓練の中身（レベル）が異なり、訓練生が混乱する。 ・募集時点で人数が、開講時には辞退などの理由で少なくなることもあり、会場確保や講師の報酬などを考えると厳しい状況になる。 ・訓練修了後、Web制作者として就職した際に困らないように、実際の仕事のワークフローに沿った訓練内容（構成）としている。また、昨今県内企業がWeb作成の際に用いているソフトに対応できるような訓練内容を取り組んでいる。 ・IT基礎習得が目的の訓練のため、パソコンに苦手意識がある人はワードのみあるいはエクセルのみに絞り、合格できるように仕向けている。また、どちらも受験しない訓練生は、就職に重きを置き、企業で最低限必要となるパソコンスキルに絞って習得するように指導している。	・パソコン操作やオフィスソフトを基礎から応用まで学ぶことができたため、今の仕事で役立っている。 ・訓練内容に不満はなかった。 ・訓練中にエクセル2級資格の勉強ができる機会があったが、自分には難しいと思い、エクセル3級の勉強をしていた。今となってはチャレンジしておけば良かったと思っている。 ・学習した事すべて役に立っている。 ・独学で学習していた部分も多かったが、Web作成の基礎を学べた。 ・実際の業務の流れを事前に知れた。 ・コーディング等の技術的な部分（配置等の工夫の仕方など）を訓練中に丁寧に教わることができた。 ・就職先ではイラストレーターを使用しているが、訓練中、デザイン作成ソフト自体を使うこと（Inkscapeを使用したデザイン作成）に慣れておいて良かった。	・Web制作に関する基礎知識や一通りの手順を把握されており、1から付きっきりで指導しなくても良い。 ・ワード・エクセル等の操作や来客対応など、一から研修・指導しなくても良いのは助かっている。 ・未経験者と比べ、PCスキルが身についている。 ・Web制作に関する知識や技術は十分とは言えなくても、0から始める方に比べると大きな違いがある。ビジネスマナー等についても訓練のカリキュラムに含まれていることから、その点での心配も少ない。 ・現状、即戦力を求めているため実務経験がある訓練生の採用に留まっているが、より実践的な内容を学び高いスキルを持っている方であれば、是非採用したい。		・来年度の訓練計画で募集分野の細分化や募集時期について検討。求職者支援訓練の認定に当たっては、「福井県の求職者の動向も勘案の上、福井県や機構が実施する訓練計画の状況も踏まえて認定する」ことを明記、募集案内に公共職業訓練の年間計画を添付。職業訓練実施機関との調整を図る。 ・コース名や内容について、辞退者を減らすために分かりやすく訓練内容を説明、スキルアップセミナー受講や職業訓練見学を推奨し、訓練受講希望者に訓練内容を適切に理解していただくよう引き続き努めていく。
19	山梨	営業・販売・事務分野	・短期訓練を行うにあたり、即就職に結びつくような取組みが必要と考え、カリキュラムを最低限必要なものに抑えて設定。 ・入所オリエンテーション等の様子を講師陣で共有し、必要な受講生のフォローを行っている。 ・訓練生の元からのスキルの違いに応じて、きめ細かく対応している。 ・時間外での施設内・自宅での自習環境作りを行っている。訓練終了後に希望者に対して就職支援サポートを行っている。 ・雇用保険適用就職率を高めるため、入所時のオリエンテーション、キャリアコンサルティング等で正社員等を 目指すよう促している。 ・入所選考後から、入所式までに意識を高めるため、任意の課題を与えて再就職への目的を明確にする取組みを行っている。 ・訓練修了後 3 か月以内の間で、修了生が集まる機会を設け、就職状況も直接報告できるようにしている。 ・応募人数が少なく未実施の場合、補償があるとありがたい。また、途中退校者人数分の委託費支払の基準を改善してほしい ・講師側の自己都合で訓練を開催できない際の対処方法を検討してほしい。 ・求職者支援制度活用の受講生と雇用保険受給の受講生がいた場合、締め日が異なるため、書類の確認に手間がかかる。受講生自身も把握していない。 ・就職率計算の対象就職者の基準の改善を希望。	・エクセルやワードで学んだことが役に立った。 ・電話応対など仕事で行う機会があり役に立った。 ・請求に関する内容などは簿記を学んだおかげで理解しやすくなった。 ・就職先でエクセルをよく使うのでとても役に立っている。 ・ブラインドタッチ、タイピングの時間を多くすればよかったが、検定の勉強のために多くの時間を費やしてしまった。 ・関数やパソコンセキュリティ等の詳細について勉強できればよかった ・経理・総務に特化した内容の訓練があったら、なおよかった ・事務職ではエクセルが必須になるので、もっと細かく学んでおくべきだったと感じる。	・難しいPC操作などは行わないが、基本的なPCの入カスキルは役に立っている。 ・Word・Excelによる簡単な文書・表への打ち込み作業に、PCスキルが役立っている。 ・クレーム対応など学んだことを生かし、社内コミュニケーションを円滑に行うことができています。 ・パワーポイントは使用頻度は少ないが、知識としてあって也很好い。 ・PCスキルは基本が判っていれば、仕事をしながら身につけていく。PC スキルだけでなく、就職する業界の知識や、職種 に応じたスキルが必要。 ・電話 応対や必要な内容を聞き取って内部に伝えるスキル、社会人としてのマナーは身につけておいてほしい。 ・総務の仕事は会社によって業務に違いがある。仕事内容を全く知らない対応が難しいため、概論・一般的な知識を習得していると仕事のイメージが付きやすい。 ・経理採用なら、簿記・財務関係等を習得必要。 ・訓練修了者は、採用後も自ら学ぼうとする意識が高い。自ら継続して学ぶという意識がある部分を期待したい。 ・一定程度社会人経験があれば問題ないが、新人研修的な部分もあるとよい。	特になし	・基礎的なPCスキルの習得可能なコースや、PCスキルに加えて、簿記や人事関係スキルも身に付けることができるコースを引き続き設定する。 ・PCの中級、上級レベルの訓練や、簿記2級の取得を目指す訓練など、レベルの高い訓練内容の設定を検討する。 ・営業・販売・事務分野の訓練を実施している訓練実施機関へヒアリング内容をフィードバックを行う。 ・受講生のレベルに応じた対応や、予習・復習・質問ができる環境づくりを訓練実施機関に求めていく。 ・職業訓練（離職者訓練）で実施しきれないスキル習得については、就職後に在職者訓練を活用することも可能である。このことを知らない企業もあるため、在職者訓練の周知をしていく。

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
20	長野	デジタル分野	・知識や技能だけでなく、コミュニケーション能力やビジネスマナーといった社会人の基礎的な部分も就職には欠かすことのできない点である。受講しやすい環境整備（広さの確保や備品の充実）も大切である。 ・訓練期間中は、IT業界に精通し、専門的な知識を持ったコンサルタントを配置して、就職支援を行っている。 ・就職機会の拡大が図られるよう、プログラマ求人の約半数が必要とされているC言語をカリキュラムに取り入れている。 ・中高年齢者について、プログラマ以外の周辺業務等も、訓練成果が発揮できることの理解を促している。 ・実際に、一般企業に所属しているキャリアコンサルタントを外部から招いたことで、受講生の再就職への意欲がかき立てられている。 ・デジタル分野において、「未経験者の中途採用は厳しい」のが、現状である。即戦力となることは難しいが、主体的に訓練を受講した姿勢はアピールポイントとなると考えている。 ・デジタル人材の育成・確保という観点から、訓練コースの増加・定員の増員も必要であるが、教える側の講師人材の確保やデジタル分野特有の訓練設備等にかかる費用を軽減して欲しい。委託費や奨励金の引き上げを要望する。	・デジタル分野での勤務経験はなかったが、希望する労働条件にマッチし、かつ、受講した訓練と関連する職種に就けた。 ・従前より、デジタル分野に興味があったが、訓練を受講したことで、当該分野のイメージが湧き、意欲も高まり、自信が持てた。訓練が就職に役立ったと考えている。 ・Web 制作系の時間をもう少し増やして欲しかった。 ・訓練を受講して、様々な支援を受けたことで、自身のキャリアアップにもつながり、応募先の選択肢の幅が広がったと考えている。 ・「言語」そのものの扱いだけでなく、どのように開発に生かしていくかを学びたかった。 ・IT 分野の受講は、今回の就職活動にメリットを感じたが、6か月の訓練では少し短く、もっと専門的・実践的なことも学びたかったとのことで、十分 な知識・技能の習得に至らなかったとも感じている。また、思っていたよりは、スキルが身に付かず、応募先の選択肢の幅が広がらなかった。 ・学校からの支援は十分でなかったが、H Wでの相談の際に、適切なアドバイスをいただけた。	・仕事ぶりから、職業訓練受講によって、職務に必要な技能・知識等が習得できていると一定評価。当社に必要な人材と考え、採用満足度は高かった。 - なお、右記のアンケートからは、「即戦力」とまでは評価していない企業も散見された。 ・様々なデジタルスキルを身に付けて欲しく、「訓練」に対する期待は大きい。現状の訓練内容に加えて、学科（「ビジネスマナー ビジネス文書作成 オンラインマナー」、「Webデザイン知識」、「データベース知識」等）・実技（「ホームページ作成・パンフレット等の更新や作成」、「データベース」、「ネットワークセキュリティ」等）についての実施を希望する。 - 更には、「生成系 AI 知識（活用）」のカリキュラムを実施して欲しい。 ・右記アンケートから、採用したポイントは、訓練で身に付けたスキルを評価したとの回答が多く見られ、訓練を受講したことが就職につながったと言える。 ・訓練未受講者に比べ、職業訓練修了者は、訓練を通して仕事に対する目的がはっきりしているの で採用、配置しやすいとの意見あり。	デジタル分野の訓練コース修了者を採用した企業にアンケートを行い、訓練修了者を採用した際に評価したポイントや業務で求められるデジタルスキル等について調査。 令和4年度に実施したデジタル分野の訓練コース修了者を採用した企業152社を対象として、アンケート用紙を郵送し、返信用封筒により回収。 全体回答率は68.4%（回答数104／152）※うち、関連就職数58。 訓練修了者を採用したことについて、一定満足していることが分かった。更に満足度を上げるために、修了生の技能や知識等を底上げするような訓練カリキュラムを検討していく必要がある。	【訓練設定について】 訓練内容のクオリティを高めしていくには、「認定職業訓練実施奨励金」や「委託費」等の引き上げが必要と考えられることから、『厚生労働省へ要望』していく。 【訓練期間について】 デジタルスキルを十分に身に付け、確実に就職に結びつけるには、もう少し訓練期間が必要と考える。一方で、訓練期間が長くなることによる弊害を懸念する意見もある。 【カリキュラムについて】 ①今まで以上に、『「社会人基礎スキル」の底上げができるような「訓練カリキュラムの充実」』を図ることが必要。 ②ネットワークは企業によって異なり全てに対応することはできないため、『基本的な内容をカリキュラムに組み込むよう委託先訓練機関に要請』していく。 ③「プログラミング」や「データベース」に係る『訓練カリキュラムの質的・量的な充実を図る検討』をしていくことが必要。 【訓練修了生が活躍できることのPRについて】 職業訓練修了生に対する就職促進のために、『ハローワーク職員がデジタル分野に係る様々な知識を習得するための研修（業界研究等）』を実施する。また、実際に活躍していることを広く知っていただくことが必要と考えており、『企業に向けたメッセージ性の強い広報活動（SNS 等の利用）』を検討していく。 【未経験者の就職促進について】 ハローワークにおいて、企業に対し、「訓練修了者及び未経験者専用（歓迎）求人」の提出に理解を求める取組を強化する。

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
21	岐阜	建設関連	・実務に精通した講師を登用し、訓練生がイメージする建設業界とのギャップを埋める話をしている。 ・日頃から綿密なコミュニケーションをとり、雑談の中から訓練生が考えていることや就活の進捗状況を把握し、就職指導を行っている。	・道具の使い方や専門用語を学んだことが現場で役に立った。 ・履歴書作成や模擬面接等の就職支援が役に立った。 ・社会人としてのマナーや顧客との接し方については就職後不足を感じた。	・社内には取得者がいない資格を有しており早速役に立った。 ・通常は入職後資格取得させているが、資格を有しておりありがたい。 ・社会人としてのマナーや顧客とのコミュニケーション能力が必要。 ・知識や基礎を習得している分、現場での理解が早い。	特になし	・訓練受講により取得可能または受検可能な資格の取得に向けたサポートをカリキュラムに導入することが必要。 ・顧客へのプレゼン、営業・相談のスキルや社会人としてのマナーを含めたコミュニケーション能力に関するカリキュラムの強化が必要。 ・受講者数を増やすため、訓練受講が就職後のキャリアにどのようなにつながるのかや就職後にどのようなキャリアパスを描くことができるのか等将来を具体的にイメージできるように周知・説明が必要。
22	静岡	IT分野・デザイン分野	・成功体験を積んでモチベーションが落ちないように、工夫した授業を設定している。 ・就職意欲が低い受講生への指導等が課題となっているため、効果的・効率的な支援にはハローワークとの連携は有効。 ・訓練内容やレベル、目的（就職）について、受講生が事前に理解することが必要と思われるため、ハローワークの訓練担当による指導や、訓練実施機関による説明会は有効。 ・雇用保険適用就職率が訓練修了後3ヶ月で判断されるのは厳しい。3ヶ月では就職が決まらず、期間を延ばすなどの考慮をお願いしたい。 ・デジタル分野の上乗せ制度があっても人件費が赤字になるため、奨励金を上げてほしい。	・就職活動ではポートフォリオが不十分で不調が続いたため、ポートフォリオ制作の授業を希望。 ・JavaとPythonを学んだが就職先の業務では使用していない。しかし、プログラミングの考え方は多くの場面で活用ができています。 ・訓練で1から学び知識を身につけたこと、資格試験の合格が自信につながった。	・デザイン部署では専門学校卒業生が主に担当しており、訓練修了者にサポートをしてもらうことを想定していたが、現状はそこまでできるスキルではない。 ・企業により求める能力のレベルは様々であり、どこまで技術を教えていくのかは難しいと思うが、想定範囲で幅広く教える必要がある一方、もう少し業種に応じた内容の掘り下げが必要と考えます。 ・職業訓練で基礎から学んでくれており社内スキルがアップしたと感じ、今後も採用にあたり考慮する一つの材料になるが、職歴や人間性も引き続き重視する。 ・本人のやる気を重視するため、特別に期待することはなく、訓練受講を考慮する予定はない。	・訓練修了者と採用企業を対象にWebアンケートツール「WEBCAS」により実施し、不足する部分は電話による聞き取りを実施した。これにより、前年度より多くの修了者から比較的にスムーズに意見をいただくことができた。	・訓練実施機関に対して、以下のような受講生や企業が求める訓練カリキュラムの設定を促すことについて、その方法も含めて検討する。 ・デザイン系の訓練は学んだことを就職活動でアピールしにくい点、自らアピールできるよう指導することが必要。 ・中途採用で最も重要視することはコミュニケーション能力であると企業採用担当から聞いているが、ビジネスマナーやコミュニケーション力が不足している方が少なくないため、基礎コースは必要。 ・未経験者が多いことを考慮して、未経験者でも採用に結びつきやすい訓練内容の検討が必要。

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
23	愛知	デザイン分野	- Webデザイン業界ではコーディングができる人材が足りないのに、実践課題を多く設けている。 - オンラインコースは在宅勤務を想定し家庭環境などを考慮すると有効。 - 中小企業ではデザインの専門部署がなく、ソフトライセンス料の負担も厳しいので、無料ツールが使えるとよい。 - Webデザインの求人応募では経験が重視されるためIT業界全般に視野を広げるよう伝えている。 - キャリアコンサルタントから専門的な就職支援、就職支援担当者から面接対策や業界情報の提供等、役割分担して支援している。 - 現場では古いソフトを使用しているところが多いため、あえて、古いバージョンのソフトを使用している。 5ヶ月という期間は、やりきれなかった部分のサポートのサポートができればと思う反面、間延びしてしまい、勉強自体が目的となる人もいる。 - SNSマーケティングや動画編集も盛り込んでいる。	- 未経験者からのデザイン系への就職を考えると訓練カリキュラムだけでは短い。実践レベルまでの学びカリキュラムであればよかった。 - 活用されなかったカリキュラムについては、HTML5は前の仕様であり、今の仕事では使っていない。 - 授業ではコードを一つ一つ説明され、覚えて打ち込むやり方だった。内容は基本のコードの延長が多かった。無料アプリを活用すればテンプレートはできているので、より多く、高度な内容まで学べたのではない。 - 訓練カリキュラムに無かったINDESIGNは今の会社でよく使っている。アドビのソフトの紹介は軽く説明があったが、授業ではイラストレーターとフォトショップをよく使っていた。 - デザイン業界自体が未経験者の就職が難しいらしい。応募先にポートフォリオを見てもらったが、うちでは無理だと言われた。授業の中でこれくらいのものでできるとアピールできるというモデルがあるとうかった。	- 小規模なWebデザイン企業では受講者のスキル等が確認できる職場実習が有効。 - 他の業界の経験者は、その経験を強みにした制作を期待する。 - Webデザインの基礎をしっかりと学び、デザインとコーディングの両方の知識・理解が重要。 - Web業界は広範であり、特定の専門スキルを身につけると有利。 - 現場で活躍するには、約3年の実務経験が求められる。 - 独自のアイデアやビジュアルセンスを示すことが採用の決め手となる。 - Webデザインの基本知識は必要。 - 訓練カリキュラムは、Webデザインの導入として理解できる内容であり、採用後に実務に役立てることができる内容。 - コーディングのポートフォリオなどの成果物があると判断がしやすい。 - 情報を扱うことの重要性や企業のコンプライアンスの重要性の認識が重要	- 訓練修了者（R5.4～R5.9の間の修了者319名）及び訓練修了者が応募し不採用となった69事業所にアンケート実施し、就職の状況や訓練カリキュラムの活用状況、就職との相関関係等を分析した。結果は以下のとおり。 【訓練受講者関係】 （分析結果） - 受講動機「興味があった」とする者が約9割 「業界情報」必要と感じる者が約4割 「Web関連以外の就職者」が約7割 - 求人応募不調理由の約3割「スキル経験不足」（課題等） - イメージ先行（自己のベース、テレワーク、SNS発信など）により訓練を受講する者が多い。 - 業界情報、企業が求める知識水準、人材ニーズなどの情報が不十分、スキル習得目標が定まらず、技能習得に個人差有り。 - 実際の訓練カリキュラムが想定と異なり戸惑う者がいる。 - 訓練で得た知識がその後の就職に活用できていない。 【訓練カリキュラム関係】 （分析結果） - 訓練期間「短く感じた」とする者が約4割 - Web関連就職者の多くは訓練科目「役に立った」と回答 「最新ソフト」「他のソフト」を要望する声が約2割 「業界情報」を要望する声が約2割 - 訓練施設のキャリアコンサルティング約9割が有効（課題等） - 訓練期間「短く感じた」者は、通所型、長期コース受講者が多い。求められるスキル、到達点などが意識された結果と史料。5割が「ちょうど良い」との意見。 - Web関連就職者は、訓練で得た知識を就職後の業務に活用、現状カリキュラム（キャリアコン含む）は有効と判断。一方、最新ソフト、他のソフトを要望する声あり、実用性の高い無料ソフトなどの操作習得の要望がある。 「業界情報」は企業ニーズ、スキル到達点の理解、目的意識醸成になるため、訓練カリキュラムに反映すること有効。 【求人応募状況等の関係】 （分析結果） - 就職経路 約5割「民間求人サイト」、約2割「ハローワーク」経由 - 求人応募不調理由の約3割が「スキル・経験不足」 「Web関連以外の就職者」が約7割 - 未就職理由 約6割「個人的都合」、約3割「活かせる仕事なかった」 - 就職には「訓練内容ブラッシュアップ」「業界情報」必要との声それぞれ4割（課題等） - ハローワークにはWebデザイン系の求人が少ないため民間求人サイト利用者が多くなっている。 - 短期間訓練で習得できるスキルには限界あり、また個人差もあるため、全般的に訓練受講者は「スキル・経験不足」となる。これらの者の受入求人（訓練修了者歓迎）の確保が課題。 - 訓練で得たスキルは、Webデザイン業界以外にも活躍機会があると思われる、求人・企業情報の収集、受講者提供が課題。 - オンライン・eラーニングコースは、育児介護等の事情の者が多く、時間制約など未就職要因があるため、個別支援必要。 - 早い段階で「業界情報」を提供し、就職への意識付け重要。	【訓練受講者関係】 ○ハローワークにおけるコンサルティング強化 ・効果検証結果をハローワークと共有すること。ハローワークでは、効果検証結果及び以下を踏まえ、受講あっせん前、受講中段階に適切なコンサルティングを実施すること。 （目的の明確化） ・知識スキル等の習得は個人差が生じやすい。業界情報等の理解が十分でない者も多いため、「業界情報」などを伝え、明確な目的意識を持って訓練を受講させることが重要。 （学習意欲の喚起） ・知識スキル等の習得は個人差が生じやすい。業界情報等の理解が十分でない者も多いため、「業界情報」などを伝え、明確な目的意識を持って訓練を受講させることが重要。 （学習意欲の喚起） ・知識スキル等の習得は個人差が生じやすい。業界情報等の理解が十分でない者も多いため、「業界情報」などを伝え、明確な目的意識を持って訓練を受講させることが重要。 【訓練カリキュラム関係】 ○訓練期間・訓練時期は適当との意見が多く、訓練日程としては概ね妥当と史料。 ・Web関連就職者は、就職後の業務遂行に訓練で学んだ知識等が「役に立っている」者が多く、訓練カリキュラムは有効と史料。 ・「業界情報」は、就職への意識を喚起し、訓練修了者の到達点の理解、目的意識醸成のために重要な情報。職業講話等の機会にて早い段階から定期的な情報提供できるカリキュラムとする必要がある。 ・最新ソフトの使用可否は必ずしも重要視されるものでないが、実務の中で広く利用される汎用性・実用性の高い無料ソフトなどは、幅広い活用機会が想定され、習得により実務能力の向上効果が期待できるため、カリキュラム導入を推奨。 【求人応募状況等の関係】 ○就職支援に係る取組 ・ハローワークにおいて、企業における公的職業訓練の認知の向上に取り組み、訓練修了者（スキル・経験不足の者）を歓迎する求人の確保に取り組み。 ・訓練修了者は得られたスキルにより、Webデザイン業界以外の業界でも活躍できる機会があると思われる。ハローワークにおいて、求人・企業情報の収集、デジタル人材の採用意向など、受講者へ情報提供に取り組むこと。また、「jobtag」を活用しつつ、早い段階で具体的な「業界情報」を提供していく。 ・オンライン・eラーニングコースの受講者は、育児・介護等の事情を抱える者が多いことから、ハローワークにおいては、それらを踏まえた個別の就職支援に取り組み。 【その他】 ○訓練実施機関の体制確保（委託費、奨励金の改定） ・訓練を安定的に実施するためには、物価高、設備費用等の上昇への対応及び講師等の人件費を確保していく必要がある。また、訓練内容を充実（就職に資する効果的なソフトの導入等）するためにも、物価、資金等の上昇に応じた委託費、奨励金等の額に改定する必要がある。
			【公共職業訓練（委託訓練）】 ・就職支援経費の対象就職者について雇用期間（常用就職・4か月雇用期間）ではなく雇用保険加入＋技能活用を基準としてほしい。支援費対象就職率を5%以上としてほしい。 ・委託費では、デザイン分野は+αの給付が認められるようになったが、その分野に該当しないと認められない。資金やライセンス料などは増加しているため、委託費が増えないと訓練の実施継続が困難。 ・キャリアコンサルタントを専属雇用している場合は加算となるなどの配慮希望。 ・IT系の就職は民間の求人サイトを利用することが多い。求人サイトは情報量が多いが、求人条件などの信頼性は低い。H-Wの求人は数は少ないが情報の信頼性は高い。 【求職者支援訓練】 ・Webデザインは就職の幅が広く「就職状況報告書」で関連就職ではないと記述があっても、掘り下げていくと関連しているところもあり判断が難しい。 ・修了後3ヶ月以内の就職が難しく未就職となる人が多い。「まだ働き出すことが怖い」「訓練がずっと続けは良い」と現実から目を背けたいと思う人が多い。 ・奨励金の支給額を見直ししてほしい。		- Webデザインの仕事は幅が広いので、業務について細分化したコースがあっても良いのではない。 ・サイト解析、ログ解析、広告の設定などができる人材がいない。 ・東海エリアではフロントエンドのエンジニア人材が足りない。（HTML/CSS、JavaScript、PHP、JSPで実装できる人材） ・デュアル訓練6ヶ月の座学4ヶ月、職場実習2ヶ月というのはバランスが良い。 ・業務で使用するソフトウェアのライセンス料が高く、人を採用すると人件費にライセンス料が上乗せとなる。 ・中小企業には人材育成のキャパシティがないため、求人サイトで実績のある方を一本釣りするという話も聞こえる。 ・自営業（個人請負）を始める人も多く、インボイス制度などの会社運営に関する基本的ビジネススキルや知識も重要。 ・営業経験のある人は、Webコンサルティングを検討すると良い。人材ニーズがあるものの、営業経験とWebの知識が必要となるための慢性的に人手不足。		

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
24	三重	介護・医療・福祉分 野	・受講者間で習熟度の差はあるものの、毎日当日の学習目的を説明して、事前に行える限り受講者の不安を取り除いてから訓練を進めている。 ・時には介護現場の厳しさを伝えつつ、受講者に寄り添った就職支援を実施している。 ・訓練中のキャリアコンサルティング実施につき、質等の確保に苦慮している。受講者が訓練受講前にキャリアコンサルティングを受けていると、訓練開始後のジョブ・カード作成が容易になり、その分質の高い就職支援が実施できると思われる。 ・訓練受講希望者と直接話をする説明会の機会をもっと増やせれば、受講者の増加につながると思われる。	・実習で学んだ基本的動作は非常に役に立っており、利用者を思いやる気持ちや寄り添った対応ができています。 ・訓練中のグループワークでの話し合い、振り返りが効果があったと感じており、利用者とのコミュニケーションで役に立っている。 ・様々な介護現場があるため、訓練中に学ぶ内容だけでは現場で必要とされる多様な利用者との接し方には対応できないことがある。 ・利用者の状況により同じサービスでも困難度は違ってくるので、いろいろな状況を想定した実技の機会をもっとあってほしい。	・基本知識が身についているため、業務を覚えてもらうことがスムーズである。 ・「訓練修了者を採用する際、賃金等の雇用条件を優遇しているか」という質問に対しては、介護職員初任者研修を取得していると採用に優位に働き、賃金も上乗せしていると回答があった。 ・利用者により接し方で特に配慮を要するケースがあるので、感情のコントロールがより高いレベルで身についているとトラブル回避になる。 ・一つのサービスでも、障害のある方、認知症の方、高齢者等いろいろな利用者がいるので、様々な方を想定した実習を経験できたら、現場でもより役に立つと思われる。 ・訓練受講の要素に加えて、介護に対する意欲、やる気がある方を採用したい。	特段なし。	・利用者との関係構築をより良くするために、介護能力の向上に関係する感情のコントロールや傾聴等の習得を目的としたカリキュラムの改善、充実を訓練校と検討。 ・受講者が就職先として希望する介護サービスの種類を想定した介護現場の見学や実技の機会を設け、就職後にも困感しないよう総合的なスキルアップを図っていく。 ・就職意欲を高めるため、訓練申込段階から就職についてのイメージ作りや採用されやすい人材を意識できるよう、可能な限り訓練前からキャリアコンサルティングを実施し、就職支援を行う。 ・ハローワークにおける介護系訓練校の説明会の機会を増やし、簡単な介護体験もできるよう、介護のこと、訓練内容のことがより効果的に伝わるような場を提供し、受講者の増加につなげていく。
25	滋賀	IT分野	【学科及び実技における工夫】 実技訓練に重点を置き、実務を想定して個人演習及びチーム演習を設定し、協調性やコミュニケーション能力の向上を図っている。 今までの訓練内容の整理や復習ができるようグループ課題を設定し、足りない技術の認識ができるようにしている。 【就職支援における工夫】 オンラインチャットツールを活用し、個別のニーズや質問に迅速に対応できるようにしている。 IT訓練対象の会社説明会（業界研究説明会）の実施。 IT業界特有の就職活動方法の説明及びオンライン説明会への参加勧奨。 【募集時における工夫】 事前説明会を開催し、応募前に訓練内容等の理解を深め、応募時点でのミスマッチを防ぐよう取り組んでいる。 訓練専用のホームページを設け、カリキュラムの説明や動画を詳細に掲載することで、訓練内容の理解促進を促す。 【その他課題】 受講者の年齢層が上がっており、若年者の受講者が少ない。 訓練でスキル・知識を習得しているにも関わらず、年齢が高いためIT分野の就職就くことが困難。 県内企業に就職を希望している訓練受講者が一定数いるものの、県内のIT分野の就職先が少ない。	VBA、プログラミング言語、データベース演習といったカリキュラムで学んだ考え方が仕事で活きている。 ITに関する基本的な知識を学べ、現在の仕事で役に立っている。 基本的な知識を学ぶことができ、対応力も身に付けられた。 就職先に関連した知識でないと活用できない。 主流言語であるJAVAを学びたかった。 チームで作業するため、コミュニケーションスキルを学べると良かった。 プログラミング言語全般に通じる論理性、構築の仕方が学べると良かった。 基礎的な部分だけでなく、実践的な内容を学べると良かった。	ITに対する興味関心の高さを裏付けけるものとして訓練を受講していたことを高く評価する。 基本的なITリテラシーを有していると判断できるため、訓練を受講していたことを高く評価する。 プログラムを実際に経験していることをある程度評価している。 基礎理解があることをある程度評価している。 ITサポートレベルの広範な知識を習得しておくことが望ましい。 最新の現場技術の把握や試用（例：WEBフロント技術の場合、Sass、React、TypeScript等）。 仕事に対するモチベーション、学習に対する意識付け。 新しいことを学ぶ姿勢、コミュニケーション能力。 ITに関する基礎知識、基礎スキルがあること。 現在の仕事に適應するまでの早さ。	特になし。	訓練効果が期待できる内容 ・基礎的な知識・技術の習得 ・会社説明会・就職支援 訓練効果を上げるための改善促進策（案） ・一部訓練における訓練カリキュラムの改善 ・IT業界の理解促進 【訓練カリキュラムの見直し】 訓練修了者及び採用企業のアンケート結果等を踏まえて、滋賀県の施設内訓練では訓練効果が低いと思われる「電気製図」、「電気・電子回路組立」の科目にかかる訓練カリキュラムの見直しを今後行う。さらに、訓練修了者・採用企業から求められている「ソフトウェア・プログラミング」の科目にかかる基礎知識に関する訓練カリキュラムを増加させることによって、訓練内容の充実を図る。 ・企業から求められているデジタルリテラシーに関する広範な知識を付与するための訓練カリキュラムの追加を検討。 【適切な就職支援、就職支援の強化】 ・施設内訓練において、就職支援で実施する会社説明会の評価が高かった。そのため、訓練修了予定者を対象とした会社説明会を引き続き実施するとともに、訓練受講者及び訓練受講を検討している者に対して就職活動に有効な会社説明会を実施していることについて周知の強化を行う。 ・個々の受講者に応じたきめ細かな就職支援を実施できるよう、求人情報の提供、オンライン職業相談の実施を推進。 【適確な受講あっせんに向けた理解促進】 ・ハローワークの窓口職員が適切な受講あっせんを行うためには、IT業界や訓練コースの十分な理解が必要。そのため、訓練施設の見学、オンデマンド研修及び研修会等を実施することで、窓口職員の知識の向上を図る。 ・訓練受講者に対してIT業界の職業理解を促進させるために、訓練受講前の施設見学への参加促進や訓練受講希望者等に対する訓練前キャリアコンサルティングを適切に実施する。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
26	京都	デジタル分野 (Webデザイン コース)	(1) - Word、Excel、ITパスポート資格対策など、広く学ぶことができる。 - 市内の企業ニーズがあるHP更新やSNSを上手く使える人材育成。 - デジタル関係企業に来ていただき、実際の現場についてお話いただく。 - 基礎力をつけるために、HTML、CSSの時間を多く設定している。 - Dreamweaverなどの最新の内容も取り入れるようにしている。 (2) - キャリアコンサルタントを複数名配置 - 月1回はキャリアコンを実施 - キャリアコン時以外でも常時相談対応、面接練習、応募書類の添削、作文の添削等をしている。 - 受講生には早い段階で就職の方向性を考えるよう指導を行っている。 - メールでも応募書類の添削を実施 (3) - 委託単価、奨励金の引き上げ。 - 就職支援経費支給要件の見直し。 - キャリアコン時以外でも常時相談対応、面接練習、応募書類の添削、作文の添削等をしている。 - 受講生には早い段階で就職の方向性を考えるよう指導を行っている。 - テキスト代の上限引き上げ。 - 休みが多い方や就職意欲の無い方へ、ハローワークの通所時に指導を徹底していただきたい。	(1) - WEB・グラフィック制作知識 - 画像編集演習 - HTML、CSSによる基礎演習、Webページ作成技術 - Webサイト制作演習 - ITパスポート試験対策 - デジタルマーケティング - グラフィックアプリケーションの基本操作 (2) - アニメーション演習 - CMS演習 - スマートフォン対応演習 - JavaScript、jQuery等のWeb専用プログラミング技術 - HTML、スタイルシートによるWebページ作成技術 (3) - WordPressは実用的な範囲まで教えてほしかった - 基本情報技術者試験まで学べるカリキュラム - エクセルのマクロ - AIについてもう少し深く学びたかった	(1) - OA事務、営業事務でもグラフィックアプリケーションのカリキュラムが役立つ。イラストレータはペイントとの違いやイラストレータでしかできないことなども教えてもらえるとうよい。 - 直接HTMLを使う事はなくても、次の工程に引継ぐ際にHTMLの知識が役立っている。また、顧客向けの簡単なサンプル作成、顧客のニーズ把握する際にも必要な知識。 (2) - WordPressは時間数を増やし、バージョンアップやプラグインの更新方法、エラー時の対応方法も教えてもらいたい。 - ホームページ作成はWordPressが主流になっており、JavaScriptやHTML、HTTPは需要が高くない。 - コミュニケーションに関するカリキュラムがあってもよいのでは。 (3) - 浅くても広く知識が習得できる訓練カリキュラムは事業所内研修（OJT）実施時にも指導がしやすい。 - 幅広く知識がある人材は企業からも需要があると思う。	特になし	- WordPressは訓練修了生、採用企業の両方においてニーズが高く、訓練時間数増加を検討する。 - グループで課題に取り組むなど、コミュニケーション能力の向上に資するカリキュラムの設定を行う。 - ハローワーク職員の資質向上のため、労働局、京都府、機構が連携し、ハローワーク担当者を対象とした、訓練コース及び業界・職業理解のための研修を定期的に実施する。 - 訓練生への指導については、実施機関とハローワークで連携を密にして対応する。
27	大阪	デジタル分野	- 意図的に学科の時間配分を少なくし、実技主体の訓練構成とすることにより、実践演習を通して実務レベルまで引き上げるよう指導している。その際、講師が答えを導き出さずに自ら調べる力、考える力を養うように指導している。 - 標準カリキュラムを基に、地域企業の採用ニーズや訓練修了者からのアンケート調査を参考にして、実情に沿ったカリキュラムに毎年度見直しを図っている。 - 生徒の適性に合わせて、適切な求人へのアドバイスや応募書類の添削支援をしている。	- Javaプログラミング演習については、コードの基本をJavaで学ぶことができたので調べながらやるにしても理解や習得が早いため役に立った。 - 全体を通して実習が多く、困ったらわかる人に聞くなどのやり取りがほぼ毎日あったため、受け身になり過ぎず授業を受けられたことからコミュニケーション能力の向上に役立った。 - Excelのショートカットキーやマクロについては、訓練受講中に習得すべきだった。	- 現在、Javaのシステムに携わっているため、Javaプログラミングスキルが採用後に役に立っている。 - 理解を深めるために、JavaSilverや基本情報技術者試験に関する知識を習得しておくことは有用と考えられる。 - 自ら進んで勉強する意欲・姿勢に期待する。 - 職業訓練を受講していただけてでなく、活用できていたことを評価する。 - IT系も色々な分野があり、SEやプログラマーが具体的に何をするのかわかっていない訓練修了者が多いため、IT分野の概要や職種について職業訓練で説明してもらえると就職後のミスマッチ防止に役立つと考える。	ー	- 急速に発展しているIT業界において、日々最新の技術が登場することにより企業ニーズも同様に变化しており、これに対応するためには常に最新の傾向を把握し訓練カリキュラムに反映させる必要がある。 - 最新の技術の活用は、基礎的な知識・技術の上に成り立つものであるため、当該知識・技術の習得は必須である。 - 今回ヒアリングを実施した訓練実施機関については上記を踏まえた訓練カリキュラムとなっていたものの、一部就職率が芳しくない訓練実施機関も見受けられるため、適宜巡回訪問の上ヒアリング結果の周知を行う。 - 訓練修了者への業界に対する理解促進やコミュニケーション能力向上に関するさらなる取組について、申請の説明会などあらゆる機会を捉えて訓練実施機関に対して依頼し、デジタル分野の訓練コース全体の訓練効果を向上させるよう取り組む。

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要				(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見			
28	兵庫	営業・販売・事務分 野	・「訓練実施にあたって工夫している点」：募集段階ではWebサイトやSNSでの周知、訓練の無料体験会の実施等。訓練期間中では実務を想定した講義や学習が遅れている受講生に対するフォロー、学習レベルが高い受講生への追加課題提供等。就職支援の段階では、就職活動計画やアセスメントツール、模擬面接など。 ・「就職に資するものとして、重点点にしている訓練内容」：実務を想定した訓練。コミュニケーション能力の向上。 ・「経済、社会のデジタル化等の影響で求められるスキルに関し、訓練カリキュラム等で対応、改善した内容」：オンライン会議、テレワーク等を想定した内容。 ・「公的職業訓練を実施するにあたり、行政への要望、意見等」：障害者向け訓練校の対象でない方で、何らかの課題を抱え訓練について行けない受講生がいることから、対応を要する。入校後の言動から真に就職を希望しているか疑問を感じる受講生が一部見受けられたことから、これを見極め適切なあっせんを行う必要がある。人件費、文具等の値上がりを背景に奨励金の引き上げを求める意見があった。	・「訓練内容のうち、就職後に役立ったもの」：WordやExcelといったカリキュラム内容が最も多く挙げられた。ここで得たスキルは事務職に限らず、幅広い職種において業務遂行、業務効率化に役立っている。また、介護職に就いた修了者が、そのパソコンスキルを買われてIT化が進められている管理の仕事もまかされるなど、その職域の拡大にも役立った。 ・「訓練内容のうち、就職後にあまり活用されなかったもの」：入職後、コミュニケーションスキルの必要性を感じ、これをより実践的に習得できる内容を求める。企業面接に行った後に、ビジネスマナーの講義があり、タイミングが合わなかった。 ・「訓練実施機関の就職支援で役立ったもの」：応募書類の作成支援が最も多い。キャリアコンサルティングや講師との個人面談が意欲喚起、不安解消といった心理面での助けとなるだけでなく、就職活動の進捗を他者と共有することで、自らの立ち位置を客観的にとらえ、計画的にこれを進めることができるといったメリットがある。 ・「就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキルや技能等」：就職先や応募先の職種に直接関連したスキルや資格（例：登録販売者の資格等）	・「採用したポイント」：基本的なパソコンスキル（決して高度なスキルを求められているわけではないが、必須の能力）。基礎的なパソコンスキルがあると認められれば、あとは人柄、立ち振る舞い等が重視される。 ・「訓練によって得られたスキル、技能等のうち、採用後に役立っているもの」：WordやExcelの技能や一定のタイピングスキル、ビジネス文書の実習等により得たスキル（情報を正しく整理し、伝達する力や調整力）。 ・「訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキルや技能等」：パソコン操作のスピードなど、その質の向上。コミュニケーション能力を重視しており、訓練においてこの能力（業務において、自分は何が分からないのか、これをしっかりと分析、把握し、分からないことを上司、先輩等社内の人間に聞ける、これによって分からないことを克服できるといったことであり、所属する組織の中で持てる能力を最大限活用できるよう調整する能力）を向上させるのが良いのでは、との意見。 ・「訓練修了者の採用について、未受講の採用の場合と比較して期待していること」：職業訓練の受講の事実をもって、一定レベルのスキルが保証されていると感じている。	・「訓練効果が期待できる内容」：カリキュラム面で、実務を想定した実践演習、コミュニケーション能力向上にかかる講義等が採用選考に自信をもって臨むことに繋がり、入職後の活躍も期待できることから、本件ヒアリングで得た内容を訓練実施機関に対する助言、指導に活用する。これにより、実務を想定した演習を極力多くの科目に設定する他、コミュニケーション能力向上に関し、必ずしもこれに特化した授業を設けることができなかったとしても、様々な科目の講義の中で課題の与え方等を工夫し、コミュニケーションもあわせて向上するような指導技法を確立していくことなど、訓練内容について更なる充実が図られるような取り組みを促していく。就職支援の面では、受講者・キャリアコンサルタント・講師との三者一体的、かつ定期的な個人面談が、受講者の意欲の向上の他、就職活動の進捗に応じた支援を可能とする機会となることから、このような個人面談での支援の質を向上させるべく、現在取り組んでいるハローワーク職員による訓練施設見学会等の機会を増やし、ハローワークと訓練実施機関との意見交換の場を確保し、両者が一体的に支援する体制を目指す。 ・「訓練効果を上げるために改善すべき内容」：ヒアリングで得た内容を訓練実施施設への助言、指導に活用する。これにより、訓練終了後の早期就職を目指すことができるよう、技能習得と並行し、訓練開始段階から計画的な就職支援を実施すること、また、習得進度が速い受講者への追加課題の設定、遅れがちな受講者への補講によるフォローなどといった取り組みを通じ、改善がなされるよう促す。		

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
29	奈良	営業・販売・事務分野	・Word・Excel等の活用など実際に使えるカリキュラムの設定にしている。 ・簿記資格はかなり強みになるため取得を勧めている。 ・FPは資格を取得するとモチベーションが全然違うため、取得しやすい自信にも繋がる3級の取得に取り組んでいる。 ・資格取得後から就職活動を行う人が多く、簿記の授業を先に、PCも設定し、実技を早期に実施できるようカリキュラムの設定を工夫している。 ・カリコンの充実を図っている。授業やカリコン時間外での個別対応に力を入れている。 ・事務局がカリコン資格を取得することで就職支援の幅を更に充実することができると考え受検中である。 ・修了後も月2回の就職面談を行っている。PCやコピー機を無料で貸し出すことで、求人票の検索・印刷等のサポートができ評判である。	・未経験職種への転職は年齢面も含めて不安があったが、スキルを身につけることで自信が持てるようになった。 ・会計ソフトを学んだおかげで、スムーズに業務を行うことができています。 ・会社では、一番パソコンに詳しくて、会計ソフトを一番活用していると言われて嬉しかった。 ・パワーポイントをもっと学びたかった。仕事ではメールの使用が多いので、基本的な社用メールの使い方などを学べればありがたかった（同コースを3ヶ月から4ヶ月に変更し内容も拡充済み。）。 ・接客をロールプレイングで学びたかった。マーケティング、ネットワーク知識、Webサイト、ネットショップ管理は、前職で知識があったが、時間が短く、最新の内容ではなかった。	・もう一名の事務員からは、資格もあり、パソコン操作ができるので心強いと聞いている。 ・パソコンの知識を活かしており、他の社員も分からないことを教えてもらい助かっている。 ・パソコン操作は必要となる。資格自体は必ずしも必要ではないが、事業主自身は事務の専門ではないため、目安になり安心感がある。 ・SNSなどで自社の情報を効果的に発信することができ技能などがあればなお良い。 ・少人数のため、一から教えて育成することは困難。パソコン操作や経理関係などの勉強をしており、資格も取得していたことが採用に影響した。 ・基礎的なスキルが身につけているため、より早く実践的な業務内容を習得してもらえると考えた。	・訓練カリキュラムに、より実践的な内容を加えること、内容を最新のものとする必要があるため、訓練実施機関へ訓練修了者の意見を伝える。 ・求人者ニーズを的確に把握し、訓練カリキュラムの充実を図るため、採用企業の意見を伝える。 ・訓練修了者及び採用企業が高く評価していることから、これらの声をHWを利用していない層を含めた求職者・求人者双方へ伝えることにより、定員充足率及び就職率の向上、求人充足支援に結びつける。	
		医療事務分野	・外来、入院、調剤の資格を取ることで知識を持った状態でレセプトの授業に取り組むことができるようにしている。 ・医療事務、医師事務、調剤事務の3種類は個人の強みが出やすいため、3種類の中で自分の望むところに就職できるよう資格取得にも力を入れている。 ・医療事務の求人は未経験でもいいが資格は必要と記載されている場合も多く、資格取得を充実させており、求人ニーズに合うよう設定を行っている。 ・キャリア・コンサルティングの充実を図っている。試験の1級を終えてから就職活動に入るが、関連業界の企業との繋がりを構築している。 ・卒業後もカリコンのサポートを実施している。気軽にキャリアコンや就職支援が受けられるよう、受講者に適した担当者が対応できるよう増員や上級資格の受験に取り組んでいる。 ・連携している団体等、地域のつながりがあり、信頼関係もあるので訓練生も安心して就職することができる。	・短期間で複数の資格取得を目指す、とても充実したカリキュラムだった。 ・まんべんなく勉強でき、仕事で直接使う知識ではなくても、総合病院であるため役に立っている。 ・医療保険制度、安全衛生など勉強できて良かった。従事している業務でなくても、医療機関で勤務する上で関連があり、知識を身につけたことが役立っている。 ・全てのカリキュラムが役に立った。接遇や自己分析のカリキュラムは、自身の強みを理解することができ、自己PRとしても活用できたため、とてもためになった。 ・今の仕事も一般的なパソコン操作を多く行っているが、どのような職種でも必要となるため、一般的なパソコン操作をカリキュラムに入れてはどうか。 ・カルテの入力作業もあるため、入力の実技の時間がもっと取れれば良かった。 ・医事コンピュータの実習はあったが、時間が短かった。	・医療機関での業務は流れがあり、業種への理解ができていたことはメリット。 ・医療事務全般を勉強していることは、病院で勤務する上で有用と考える。 ・今の訓練内容で、資格取得については十分。一般的なパソコン操作は必要。 ・医療機関は人と接する機会が多く、コミュニケーションスキルが重要。優先順位のつけ方や判断するスキル、クレーム対応なども。 ・医療用語やカルテの書き方の知識が必要。カルテの作成等も全てパソコン操作となるため、一般的なパソコンの操作。 ・コミュニケーション能力が必要なので、1ヶ月でも実習があるといい。 ・医療事務の基本的な知識があること、訓練を最後まできちんと修了している人ということで、安心できる方と感じたため採用した。 ・人柄やコミュニケーション能力が高いと感じたこと、職業訓練に通うという向上心の高さも魅力を感じた。	・訓練カリキュラムに、より実践的な内容を加えること、実技面の充実と時間を確保する必要があるため、訓練実施機関へ訓練修了者の意見を伝える。 ・コミュニケーション能力の向上を含む求人者ニーズについて、訓練カリキュラムの充実を図るため、採用企業の意見を伝える。 ・訓練修了者及び採用企業が高く評価していることから、これらの声をHWを利用していない層を含めた求職者・求人者双方へ伝えることにより、定員充足率及び就職率の向上、求人充足支援に結びつける。	

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
30	和歌山	デジタル分野					令和6年度上半期でヒアリングの実施で済す。 下半期で実施し、第2回協議会で報告予定。
31	鳥取	営業・販売・事務分 野	・訓練カリキュラムについて、実務に役立つ内容、求人に即した内容となるよう工夫をしている。 ・地域の求職者・求人企業の需要を分析の上、実施時期及び訓練期間を設定し、他の訓練実施機関が行う訓練と日程、内容が重ならないよう工夫している。 ・就職先のイメージ付け、求人情報等の提供を行っている。 ・受講生のスキルや意欲にばらつきが大きいことがあることや、難易度が高くなってくると意欲低下する者がでてくることがあり、対応に苦慮している。 ・キャリアコンサルティングにおいて、ジョブカードを活用した自己の強みや職業興味、価値観の再確認は有効である。 ・訓練後半では、資格試験に気持ちが集中しすぎる傾向にあるため、受講生と一緒に求人検索などを行い、就職に対しての意欲を高めるようにしている。 ・就職への意欲が感じられない受講生への対応として、仕事に対する考えを引き出しつつ、今後の生活設計について考えて言葉にしていたいただくというような取組をしている。 ・訓練の質の向上のために、委託費の増額について検討いただきたい。	・知識・技能、コミュニケーション能力については就職後に役立った。 ・パソコン操作について知らなかったことが学べたため、就職してからパソコン操作で困ることがあまりなかった。 ・ビジネスマナーなどは、今まで知らなかったことも多かったことで勉強になった。 ・就職先によっては使用するシステムが相違していることにより、習得した知識が活かされないこともある。 ・ワード、エクセル2級等の上位資格や労務管理、社会保険等の知識のニーズが高く、ホームページの知識やデジタルリテラシーといった内容も必要と感じている。	・パソコン操作やコミュニケーション能力については、高い評価をしている企業が多数であったが、期待していたレベルではなかったという企業も少数あった。 ・ビジネスマナーやコミュニケーション能力の必要性は9割以上のニーズがあり、ワード、エクセル2級レベルの必要性についても8割以上のニーズがある。また、ホームページの知識やデジタルリテラシーについても7割程度のニーズがある。 ・訓練修了者の採用について期待していることは、ビジネスマナー・コミュニケーションがとれることや、努力することに前向きであり自身のキャリア（将来の）についてよく考えていることである。	・訓練修了者については、在職中でありヒアリングを行うことが難しいことから、訓練内容に関連した職種で就職した71名に対してアンケートを実施し、22名から回答を得た。 ・訓練修了者採用企業については、訓練修了者を採用した企業40社に対してアンケートを実施し、回答のあった33社に対して電話や訪問によりヒアリングを実施。	・採用企業の多くがビジネスマナーやコミュニケーション能力が必要とらえていることから、訓練カリキュラムに係るビジネスマナー・コミュニケーション能力の重要性について訓練実施機関と情報共有することにより、訓練カリキュラムの強化を図る。 ・デジタル分野以外の全ての職業訓練に、基礎的なデジタルリテラシーのカリキュラムを実施。
32	島根	「介護・医療・福祉」分野	【訓練の実施にあたり工夫している点】 ・介護へ前向きな興味を持てるよう、毎朝関連する新聞やニュースを取り上げて話題にする。 ・現場ではチームワークが大切になるため、グループワークを取り入れ受講生同士が議論し発表する場を設けている。 ・カリキュラムの最初に自己のキャリア形成や社会から求められる人間像（社会人基礎力）について説明し、具体的なイメージを持って訓練に臨めるようにしている。 ・今の介護現場をよく知る講師を選定している ・企業実習を経験すると受講者の自信につながり、実習先に就職するケースもよく見られるため、受け入れ先の選択数が増やせるよう開拓に取り組んでいる。 【訓練実施にあたり課題を感じる点】 ・受講希望者が少ないこと。コース案内の配布など色々行ってきたが、限界を感じる。 ・訓練受講の動機（モチベーション）が個人によって様々であり、訓練施設が目標とする仕上がり像に届かない場合がある。 【訓練実施にあたって国への要望等】 ・訓練委託費の見直し。介護人材の育成のため受講生が少人数でも取り組んできたが、この状況でいつまで開講できるかわからない。少人数でも運営できるよう資金補助などがあればと思う。 ・訓練に限らず、介護分野への積極的な支援策。	【訓練内容のうち役立ったもの】 ・訓練内容がそのまま仕事に使えるわけではないが、基本を知っていることで、仕事がスムーズに理解できる。 ・実技で学んだ実践的なスキル（動作の前に行う声かけなど） ・身体介護の基本動作や要介護者への接し方 【訓練内容のうち役立たなかったもの】 ・習ったことは何かしらの役に立っている。役に立たなかったというものは今のところない。 【訓練で学んでおくべきスキル】 ・重度の方に対する介護方法（比較的程度の方に対する実習内容だったため） ・実践的なスキルの留意点（食事介助のコツや看護師が実施することへの理解など） ・実技や企業実習の時間がもう少し長ければよい ・コロナで予定していた実習ができなかった。実際の介護現場を学ぶ時間は必要だと思う。 【その他】 ・難しいことだが設備面が気になった（ベッドの老朽化など） ・訓練修了後も他の受講生や講師の方と情報交換できているのが良い ・自分の条件に合う就職先を探してもらうなど、手厚い就職支援をしていただき有り難かった。	【スキルで採用後に役立っているもの】 ・介護に関する基本的な用語や知識。訓練で習得した知識がそのまま実務に活かせるわけではないが、基本を理解しているだけで業務が円滑になる。 ・要介護者への言葉遣いや接し方が良い 【習得しておくことが望ましいスキル】 ・企業実習による実体験をより重視して欲しい（現場とのギャップの解消） ・人との接し方やチームワーク、社会人としてのマナーも含めたコミュニケーションスキル ・介護の事例などを多く聴いておくこと 【訓練修了者に期待していること】 ・職業訓練で介護を希望し受講した方は、介護の仕事に興味を持っており仕事に対する意欲が違う。定着率の面からも高い意欲に期待している。 ・即戦力としての期待 ・訓練の実習で要介護者に接している部分は大きなメリット 【その他】 ・介護従事者のさらなる不足が予想されており、介護人材の育成に相互に協力していきたい ・就職に向けた訓練生と採用企業との情報交換の場を増やして欲しい ・以前15名体制だった部門を半分程度で運営しており、職員平均年齢も50代後半。定年者を継続再任用でなんとか保っている状態であり、人手不足は深刻になっている。	「介護の各種魅力と求職者のタイプを分類し、介護業界への効果的な誘導ができるようになるマッチング表の作成」を改善案とした。 【以下理由】 ・現状のカリキュラムに大きな不満や不足はみられなかった ・採用企業から訓練生への評価は高く、訓練生の訓練施設に対する評価も高かった ・明確にネガティブな意見として、訓練施設は金銭的な問題、企業は深刻な人材不足を訴えていた ・急激な訓練奨励金単価の引き上げは難しいが、介護訓練は定員の半数程度で開講することが常態となっており、定員上限で開講できれば単価が倍になることと同じ効果がある。また、訓練受講生が多いほど、企業に送り込める人材を生み出すことにもなる。 - 上記により受講生の取り込みを最大のターゲットとし、受講動員の強化につながるよう改善案を作成することとした。	

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
33	岡山	デジタル分野	〇工夫している点 ・単なる知識の習得に止まらず、実際に業務ができるようになるための演習を行い、その成果を習熟度評価の基準としている。 ・受講生による自主的な学びを奨励し、受講生発案のオンライン座談会や勉強会の開催を促進している。 ・学習内容の定着を図るため、テキストを用いたインプット後、グループワークによるアウトプットの時間を設ける等、学習効果を高める取り組みを実施している。 ・デジタル分野の企業リストを作成し、各企業が求める人材情報を受講生に提供している。 ・デジタル関連企業の経営者や人事担当者を招聘して就職相談会や職場見学会を実施し、就業イメージの具体化や就職意欲の向上を図っている。 〇国への要望 ・訓練で使用するデジタル機器導入のための支援をお願いしたい。 ・デジタル関連コースを実施するためには、スキルの高い講師の確保が不可欠であるが困難な状況にある。講師を育成する施策の実施や講師謝金の増額が必要であると思われる。	〇就職後設立した訓練 ・取り組み方、考え方、不明点をどう解決していくかということ学び、新しい仕事への理解、解決方法へと繋がっている。 ・基本情報技術者試験で勉強したことが役立っている。 ・WEBサイトの仕組みなど、現在の仕事で必ず知っておかないといけないことを学び、非常に役に立っている。 ・就職活動のサポートが充実していて、とても助かった。 〇意見等 ・訓練受講者のレベルに応じたコース設定でもよいのではないかと思った。 ・もう少し実践レベルまで学べると、更に自信が持てたと思う。 ・基礎的なことが多く、学んだことだけで実際に働くことは難しいと感じた。	〇訓練により得られたスキル、技能等のうち採用後に役立っているもの ・基礎的なスキルを習得しているため、採用後の研修が教えやすい。 ・未経験者と比べて説明に時間がかららないため、円滑に仕事を進めることができる。 ・基本がしっかり理解できていて、順応力が身に付いている。 ・採用時にITパスポート、基本情報技術者等の資格を取得していると、個人のレベルをある程度把握できるので、採用後の方向性についても話が進めやすい。 〇訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技能等 ・セキュリティやERP等の知識を持った方を採用することで、即戦力となってもらえることを期待している。 ・ITについて6ヶ月の訓練を終了していること、ある程度社会人経験があることが未経験者よりも安心できる材料になっている。 ・トラブルやエラーに対する問題解決能力が備わっていることが望ましい。	・クラウドサービスに関する知識や技術動向は、社内システムの構築においても欠かせない要素となっており、今後のニーズを踏まえつつ訓練に取り入れる検討を実施機関に依頼する。 ・訓練受講者から「ITパスポート試験等の資格の重要性を早めに知っておけばよかった」といった意見があったことから、入所時や個別面談において資格の重要性をを強調する等の対応を訓練実施機関に依頼する。 ・SEへの就職活動においてもポートフォリオが必要となるため、訓練により習得する知識・技能が訓練コースに設定された職種にマッチしていない可能性があるため、訓練実施機関にカリキュラムの再検討を依頼する。 ・短時間、短期間の訓練については訓練受講者及び就職先企業等のニーズを把握したうえで、訓練範囲を見直すよう訓練実施機関に依頼する。 ・専門スキルの習得に加え、問題解決能力やプログラミング能力が習得できるようなカリキュラムの導入についての検討を訓練実施機関に依頼する。	
34	広島	IT分野	・企業や人材紹介会社から情報を収集し、現場で必要とされるスキルを付与できるカリキュラムを設定している。 ・専門科目においてだけでなく、コミュニケーションやビジネスツールの活用能力など業界の需要に沿った訓練科目を取り入れている。 ・チームにより解決する課題設定や全員の前のプレゼンテーションを取り入れている。 ・キャリアコンサルタント自身が業界の最新情報を知るための勉強会を実施している。 ・授業後の質問対応や土曜日（キャリアコンサルティング実施日）の自習室解放、自習時間に指導者を付ける等の工夫をしている。 ・説明会に加え、YouTubeでも修了生の声を公開している。今後は過去1年間分の修了生の就職先一覧を配布予定である。	・事前説明会で修了者の話（異業種からの転職者やプログラミング従事者等の話）があると良い。 ・SEとしての考え方や必要な資格を早めに知っておきたかった。 ・内容が難しく訓練期間が短かく感じた。もう少しゆっくり教えてほしい。 ・受講生のレベルに差があり、質問しにくい雰囲気があった。講師の増加や授業後の質問対応を検討してほしい。 ・プレゼンテーションに必要な対話スキルをもう少し学びたかった。	・訓練で学んだ知識・スキルを実務と結びつけて活用していくことや、システムをより良く改善するための考えを提案できること等を期待している。 ・グラフやデータベースの利用（プレゼンテーション実習）、サイバーセキュリティに関する知識等を、より一層学んでおくことが望ましい。	・訓練期間に相応した無理のないレベル設定 ・応用ツールの基礎となる内容の充実 ・コミュニケーション能力を培うカリキュラムの設定 ・地域の求人ニーズに沿った幅広い基礎知識・スキル等の付与 ・就職実績や体験談を含む説明会等の実施 ・求人ニーズや求職者ニーズを踏まえた仕上がり像の一層の具体化、見える化	
		介護・医療・福祉分野	・講師は今現在、現場で活躍している介護職員・管理者が多く、実際の声を届けられる。講師と面識があると、面接や見学にも行きやすい。 ・職業人講話の講師について、訓練生がイメージしやすいよう複数分野にわたる内容とした。 ・人との対話が多い職業なので、最低限のコミュニケーション能力があることは重要な要素である。 ・求人側は正社員を希望しているが、受講生は他業種からの転職者が多いため、まずはパートで仕事に慣れた後、正社員に進みたいという傾向がある。	・就職前に介護の事前知識があることで、移動の際の声掛けや介助がスムーズにできた。 ・就職先のグループホームでは、認知症の入居者が多いため、もう少し対話スキルを学びたかった。 ・訓練開始時点で、訓練の内容やレベルに不安を感じていたので、自分にあった訓練を選ぶためには、見学や説明会の充実や、わかりやすい資料による説明が必要だと思う。 ・施設の種類（デイサービス、グループホーム等）ごとの実習、見学だけでも複数箇所あればよかった。 ・事前説明会に参加し、「基礎から学べる」というのが良かったし、スタッフからの声掛けもよかった。	・職業訓練の中で実習等の経験があると、実際の業務に際しての不安感はない。 ・認知症高齢者の方とのコミュニケーションと対応技術を習得しておくことが望ましい。 ・7～8割を占める認知症の方への対応力を身につけられる訓練があるとなお良い。 ・訓練修了生に期待していることは、基本的な知識・実技を身につけていることはもちろん、実習等で実際の仕事風景を見て、実感を把握されていることである。	・対話スキルを培うカリキュラムの設定 ・就職支援の充実 ・介護現場の実情を伝えることができる講師の選定 ・施設外実習での職務理解 ・介護施設の種類毎で必要となるスキルの習得 ・就職実績や体験談を含む説明会等の実施 ・求職者ニーズと求人ニーズを踏まえた仕上がり像の一層の具体化、見える化	

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
35	山口	医療・福祉・介護分野	①訓練実施にあたって工夫している点：（ウ）内は訓練期間【受講生同士のコミュニケーションの確保】 ・中途退校者を出さないため、多くの受講生に就職してもらうため、開講日のオリエンテーションが大事と考えており、「いつでも相談してほしい。」と伝えている。（2か月） ・開講日のオリエンテーションで、「何を学ぶのか、目指すのか、具体的なイメージを持って取り組んで欲しい」と説明し、訓練の目的について理解してもらっている。（6か月） ・「クラスの和」：開講日に自己紹介の際、「趣味」などのお話を取り入れることや「自己他己紹介」により早期にクラス内が打ち解けるように心がけている。（4か月） 【講義内容で工夫している点】 ・毎日の仕上げテストで復習し、予習につなげる授業に心がけている。（2か月） ・高齢者をはじめ、学ぶ機会から遠ざかっていると独学が難しいことからグループワークやディベートなどのアクティブラーニングが効果的と考え、講義に多く取り入れている。（2か月） ・実務者研修で学ぶべき内容について、簡単であるが授業に盛り込んでいる。（4か月） ・委託訓練（デュアルシステム）においては社会人基礎力としてビジネスマナーや（対人）コミュニケーションスキルを習得可能な訓練導入講習が大きな役割を果たしている。求職者支援訓練の実践コース（ビジネスマナーや（対人）コミュニケーションスキルの設定不可、基礎コースでは可能）との大きな違いである。（4か月） ・訓練にて現場スタッフが講師をすることで仕事での経験を伝えている。（共通） ・「介護予防」で高齢者の食事の栄養バランスや献立を考えたり（学科）と運動への支援（実技）の科目は4か月訓練という介護分野の訓練設定としては長期間であることが可能となっている。（4か月） 【講師について】 ・技術講習には2名以上の教員で対応し、きめ細かな指導を行っている。（6か月） ・科目の講師選定は講師（外部講師）の得意分野を中心に選定している。講師が異なることにより様々な講義を受けることで、視野が広がり、現場での臨機応変な対応が可能となる。（2か月） 【資格・取得スキルについて】 ・すべての訓練において国の基準に基づき「介護における基本知識」や「介護を実践するための必要な技術」などを科目設定している。 ・訓練期間によって、取得可能な資格や知識・スキルが異なる。 2か月：介護職員初任者研修 4か月：介護職員初任者研修、福祉用具専門相談員、同行援護従業者養成研修（一般・応用課程） 6か月：介護福祉士実務者研修、医療的ケア基本研修 【職場見学・職場体験・職場実習等について】 ○訓練期間の長短により設定時間が異なっている ・2か月：6時間 - 職場見学は、座学や実技訓練より効果的であり、見学時にちょっとした体験も組み入れている。また、この体験が修了後の就職にもつながっていると思っている。 ・4か月：117時間 - 企業実習は10日間ごとに2か所の施設で実施した。長期間訓練のメリットとして①現場の1日の流れが把握できる。②利用者とのコミュニケーションがとりやすくなる。③レクリエーション等多くの仕事に触れることができるなど、実践的な体験が可能である。 ・6か月：36時間 ・6h×6日間、訓練修了1か月前に見学実習を中心に、利用者との会話や食事介護、食事の準備などを行っている。利用者からの感謝の言葉や多くの体験をすることにより実習前の介護職のイメージが変化したとの受講生からの感想がある。 ○職業訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況 ・訓練実施期間中、1か月に1回、定期的にキャリアコンサルティングを行っている。 ・キャリアコンサルティングの回数は、おおむね、1か月に1回の実施が適当との声が多かったが、中には、定期的、形式的に実施するより、必要に応じて随時、実施する方が効果的という意見もあった。 ・ジョブ・カード作成支援や面接の受け方等についても導入講習や就職支援の科目にて実施している。 ○訓練実施に当たっての国への要望、改善して欲しい点 ・訓練カリキュラムにおいて、資格取得後に職場実習を設定することとされているが、資格を取得する企業実習前に中途退校する者が増えて	【訓練を受けようと思ったきっかけ】 ・業務と実務者研修の受講の両立が難しいと感じたため。 ・家族の介護が必要になったため。 ・転職のため介護施設に見学に行ったが、最低限の知識が必要と感じたため。 【訓練カリキュラムについて】 ・2か月の初任者研修では、本当に入り口部分しかわからない。PCスキルの授業はいらなかった。 ・車椅子を使った、「移動、移乗」などの演習は、実践してみないとわからない部分が多かった。もっと実技の時間があればよかった。 ・職場見学や職場実習は、もっとあった方がよい。訓練生同士の実習等ではわからないことも多く、見るだけで役に立つと思う。 ・講師の方といろいろな話ができただことは良かった。実際に業務をしている講師の話は大変参考になった。 ・カリキュラムで扱う障害の話は高齢者が中心で、障害児・障害者の介助について学べるとよかった。 【訓練を受講してよかったこと】 ・高齢者でも就職ができたという点がよかった。働く意欲のある高齢者に職業訓練を進めたいと感じている。介護というネガティブな部分がクローズアップされがちですが、全くそんなことはありません。毎日、いろんな変化があって自分にあっていると感じている。 ・高齢の自分でも人の役に立つ仕事ができていることがうれしい。自分の介護を必要としている人がいることは仕事の励みになっているが、全くそんなことはありません。毎日、いろんな変化があって自分にあっていると感じている。 ・働きながら学ぶことは自分には厳しいが、雇用保険を受給しながら、余裕をもって学べる制度があり感謝している。 ・前職では時間に追われて流れ作業的に働いていたが、訓練を受講することにより業務のひとつひとつの意味を学び、円滑なコミュニケーション（声掛けなど）が大事であると再認識した。今年、介護福祉士の資格を無事、取得しました。	【採用時に必要なスキル・業務にあたって必要なスキル】 ・個人差はあるが「介護」に対する基本的な知識や技術を学ぶ時間を増やした方が経験の浅い人には役に立つのではないかと。 ・介護対象者は、高齢者だけではなく、障害者の場合もある。高齢者と障害者に対する対応の違いを理解して訓練に臨んでほしい。 ・学校や訓練など知識面で優秀であっても、利用者及びスタッフとのコミュニケーションスキルが乏しいと介護の仕事は難しい。 ・相手の立場に立って考えるという姿勢ができていないかが重要である。 ・PCスキルについては、最低限のスキルがあれば十分である。 【訓練カリキュラムについて】 ・「移動・移乗・排泄」の演習を学ぶことは役に立つと思う。 ・仕事の就き始めは過剰介護になりやすいことから、「自立支援に向けた介護方法」を多く学ぶことが将来役立つことになる。 ・「情報収集・アセスメント・介護計画」に関する習得は重要と考える。 介護職員初任者研修としては高度な内容であるが、家族から介護に必要な様々な情報を聞き出し、その情報を介護計画に反映させ、職員同士で情報共有をしていくことは介護の仕事をしていくうえで重要であることから、学んでいただきたいと思う。 【その他】 ・介護の仕事をするのが楽しいと思ってもらえる訓練にして欲しい。利用者やその家族、スタッフの方にはいろいろな考え方をする方がいて、つらいことやうまくいかないことがあるけれど、やりがいを感じることも多い。 ・訓練実施機関に見学・実習をしていただくや障害者介護の業務が理解できると思う。 【訓練修了者の採用について、未受講者（未経験者）の採用の場合と比較して期待していること】 ・利用者に対する説明の仕方が経験者と未経験者では異なる。基礎知識がない方はゼロから教えるだけではならないが、訓練修了生は、現場の速いで戸惑うことはあるが、訓練を受講している分修正が早い。 ・施設内での勉強会に積極的に参加し、訓練で得た知識との相違についても意見してくれる。 ・介護福祉士の資格を取得してほしい。	特になし	○企業や求人者（以下「企業等」という。）が求めるスキル・資格と訓練修了生のスキル・資格 ・効果検証を行った訓練コースについて、訓練期間の長短により取得できる資格等には違いがあるものの、介護分野の企業等が求める資格は、「介護職員初任者研修」または「介護福祉士実務者研修」の習得は必須であること。 実際に、就職した訓練修了生が就職先で、実務経験3年以上となり、「介護福祉士」資格を取得した例もある。 ・企業側が求めるスキルに、「介護における基本知識」と「介護を実践するための必要な実技」及び「コミュニケーションスキル」が求められている。 介護における基本知識は、利用者に対する人権に配慮した声掛けや接し方が理解できることである。あわせて、利用者の車椅子からの移動、移乗や排泄などの実技の基礎を身につけることで、場面に応じて臨機応変に対応できることである。 コミュニケーションスキルは、利用者やその家族やスタッフにおいて、円滑に業務を進めていくうえで必須のスキルである。 また、介護支援計画を作成するために利用者やその家族からの情報収集やアセスメントを進めていくためのスキルは将来身につけるべきスキルである。 ・企業側の意見として、特に高齢のスタッフが多い小規模事業所においてはPCスキルについては最低限のスキルで十分と考える事業所もあり、デジタル化が進んでいない現状がある。 訓練修了生へのヒアリングにおいても、現在の仕事では、訓練で身につけた「ワード・エクセル」のスキル等を活かす場面はあまり多くないとの回答があった。 ○訓練に必要なカリキュラム・強化するカリキュラム ・訓練実施機関として、受講生同士のコミュニケーションの確保を挙げており、訓練開講のオリエンテーションで、訓練目的の理解や「クラスの和」を図るための工夫を図っている。これは、今後、受講生同士の実技を行ううえでも必要であり、中途退校者の防止にもなっている。 ・職業訓練実施機関、訓練修了生及び訓練修了生採用企業が必要なカリキュラムとして、「職場見学・職場体験及び職場実習」は、訓練生同士の実習等ではわからないことも多く、見るだけでも役に立つため時間数を増やして欲しいという意見があった。 また、訓練実施機関や企業側も実際に業務を見てもらうことで就職に結びつきやすくなっているという意見もあった。 ・介護には、高齢者だけでなく、障害児や障害者の介護、介助も含まれ、高齢者への介護（機能維持訓練）と障害者等への介護（機能回復訓練）の対応の違いを理解してほしいという意見があった。 ・一方で、介護業界においてはあまりデジタル化が進んでいない状況が確認されたことから他の業界に遅れを取らないために標準的なデジタル知識やスキルの習得も重要である。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
			いる。 企業実習前の取得資格は介護職員初任者研修受講後でよいのではない か。 ・認定職業訓練基本奨励金の一人当たりの支給金額が20年前と同じと 認識している。物価の変動等を鑑み、増額について検討をお願いした い。 ・認定職業訓練奨励金の支給申請書や提出書類の簡素化を希望する。 ・訓練実施期間重複の解消を希望する。訓練修了時期と開講時期が重な ると、実施機関としての実施体制の確保が困難となるため。 ○その他 ・訓練の良い点として、訓練生の年齢層が幅広く、様々な年齢層とコ ミュニケーションをとることができ、介護職に十分生かせる。				
36	徳島	医療・介護・福祉分 野	・介護は、人が好き、人と関わることが好きな方が多く、また、人に感 謝されることが介護職の魅力であり、そのためコミュニケーション能力 が大事であり、その意味でも職場実習は必要不可欠である。 ・介護分野でもパソコンの知識・技術の必要性から外部講師に依頼し、 54時間のパソコン実践でワード、エクセル、パワーポイントを学ぶこ とができる。 ・介護職へ人材を輩出する使命感により少人数の申し込みであっても訓 練開講に努めているものの、採算面では厳しいことから、何か救済措置 が可能なら願いたい。	・異業種（接客業）からの就業であったた め、講義、職場実習、全てが役立っている。 ・認知症の方などの対応方法について、知 識は得られたが、具体的な対処方法を学ん でおきたかった。もっと充実した内容の職 場実習であれば良かった。 ・現場で様々な利用者に応じたケアができ るようにグループワーク・実習では色々な 方とペアを組んで、対・利用者、対・職員 とのコミュニケーション技術をもっと学ん でおきたかった。	・初心者には一から教育しなければならないが、 訓練受講者は基礎知識があるため、OJTですぐ に対応できる。 ・慢性的な人手不足となっており未経験者ではそ れに急ぎ対応することはできず、今後も訓練修了 者の採用を前向きに考えたい。 ・介護職への就職を目的に訓練を受講しているこ とから職場での定着が大いに期待できる。 ・はじめて介護をするのではなく、介護の基本的 な知識や技能があるので、率先して業務に取り組 んでくれている。 ・業務報告の作成もあるのでパソコン操作や要点 をまとめて相手に伝える力、また、レクリエー ションもあるので発想力や企画力を培えるような カリキュラムがあれば尚良い。	効果検証の実施にあたって「関連就職」などの視点も考慮し、 令和5年4月から令和6年3月までに終了した、介護分野の委託 訓練、求職者支援訓練及び介護労働講習の就職状況を検証したと ころ、対象となった9コース、定員197名、申込者数143 名、入校者数126名、就職者99名、うち関連就職80名と いった結果となった。 また、これら9コースの訓練修了者の就職した者のうち、安定 所の訓練担当で把握している訓練受講の動機をヒアリングしたと ころ、①資格取得により安定した就職を目指す者、②資格取得に より就職先の幅を広げた者、③介護職の経験があるものの、資 格を所持しておらず、訓練を受講し、資格を取得して再び介護職 へ就くことを希望している者、④年齢層が高い者の中では、身内 の介護がきっかけで介護に興味を持ち、介護職を希望した者、⑤ 身内に介護職で就業している者がおり、その影響から介護職を希 望するに至った者、⑥安定所での相談により受講を決めた者、と いった受講動機が見受けられた。	・訓練カリキュラムの実技・実習がより充実したものになる よう、実践的な内容を加えることを提案する。 ・PC操作を含むITリテラシーを習得できるカリキュラム の追加を提案する。 ・介護職に就くことの魅力を十分に発信し、受講者確保に繋 げられるよう職員向けの説明会・研修会を実施する。
37	香川	デジタル分野	・責任感やコミュニケーション力を高めるためにグループでの作業を取り 入れ、受講生同士の関係性構築を図っている。 ・早期就職に繋がるよう求人情報を積極的に提供し、訓練関連企業の企 業説明会を実施することで受講生の業界理解や就職意欲の醸成を行って いる。 ・委託費に係る要件がIT業界の就労実態に見合っておらず、就職者に計 上出来ない雇用形態での就労が多いことを考慮した要件の見直しを希 望。	・関連就職・非関連就職を問わず、Excel の知識が役立っている。 ・訓練で学んだ知識はほとんど役に立っ ているが、実務では応用力が必要とされて いるため、もう少し実践的・専門的な知識や スキルを学びたかった。	・専門スキルの習得だけでなく、生産性向上や 企業運営に活用出来るスキルを求める意見が多数 あった。 ・経験、専門スキル、人柄などの必要度合いにレ ベルは必要であるが、課題解決力、チームワーク、 ニーズを汲み取るコミュニケーション能力が重要 との回答があった。また、良いチームワークを構 築出来る人物が採用時に見極めているとの回答も あり、専門スキル以上に人柄を重視している模 様。 ・自社で必要とするデジタル人材像について聴取 し、以下の回答あり。 ①ECショップの運営やSNS発信など多岐に渡る 業務に対応できる ②失敗を恐れずに自ら考え行動出来る方、チーム で仕事出来るコミュニケーション能力がある方 ③デジタル分野に興味関心を持ち、スキル向上の ため勉強し続けられる ④業務効率化繋がるAI、IoT、kintoneやサー バ、ネットワーク構築の知識を活用出来るスキル があると望ましい	一定期間中にHWを利用する求人者・求職者を対象に職業訓練に 関するアンケートを実施し、アンケート結果は協議会・WGで共有 を図り、訓練計画の策定・コースの見直しに活用している。 また、ヒアリング対象者に非関連就職した訓練修了生、在職者訓 練実施企業を追加。 【非関連就職した訓練修了生】 ・基本情報技術者レベルの知識やネットワーク構築の知識が役立 ち、事業内容の理解度が深まったとの回答があり、職種関係なく ITスキルの必要性を確認。 ・非関連就職をした理由は、持っているスキルに＋αを身につけ て経験のある職種への就職を目指しているとの回答があった。 【在職者訓練実施企業】 ・自社で必要とするデジタル人材像について聴取し、以下の回答 あり。 ①基本情報技術者レベルのスキル、データベース管理が出来る と望ましい ②AIやIoTを現場で活用出来るスキルがあれば業務効率化が図れ るため望ましい ③サイバーセキュリティ対策やRPAなどを活用出来るスキル ④コミュニケーション能力、社会人としての基本マナーができ ている ・製造業において、CADオペレーターは事務職と兼務ではなく専 門職として従事しており、業務効率化のためにITスキルを身に つけて欲しい、という意見があった。	・企業、修了者のニーズなど訓練コース設定に活用できる情 報を職業訓練実施機関、県、機構、労働局・HWが共有でき る体制を構築し、訓練コースの設定、カリキュラムのブラッ シュアップに活用する。 ・企業が求めるデジタル人材についてまとめたパンフレット を作成し、HWでの相談時に活用することで訓練受講生の早 期就職の意識づけ・業界理解を促す。 ・HW職員が事業所訪問などの機会に職業訓練制度の周知、 訓練受講生の情報提供、訓練関連職種への提案を行うことで求 人開拓および就職率向上に繋げる。 ・資格取得は最低限のスキル・知識を習得しているアピー ルになり就職可能性向上の一助となる旨を職業相談時に説明、 資格取得を促す。 ・訓練修了生は製造業や事務職＋αの業種で就職している者 が多く、情報通信業に限らず企業ニーズが高いため事務職希 望の求職者にも効果的に受講勧奨を行う。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
38	愛媛	営業・販売・事務分 野	・訓練終了後も未就職者に対し、引き続き来校するよう声がけを行い、メールアドレスを交換するなど、訓練修了後も就職支援を継続している。 ・個人面談を行い、今後の目標・課題、これまでの職務経験から学んだこと、自分の強み、価値観を明確にするとともに、自己肯定感が上がるよう支援している。 ・訓練生の中には、疾患や特性などの原因で就職が困難な方が増えており、サボステや難病の就労支援窓口からの情報提供があればありがたい。 ・入校時点で、訓練生の中での極端なスキルのレベル差を感じることがある。スキルの低い訓練生にとっては、それがプレッシャーになっていることがあり、日々励ましながらの訓練となっている。 ・訓練生が多い方が早期に面接を受け、就職が決まる訓練生も出てくる可能性が高く、周りの訓練生にも影響し、就職率が良くなる傾向にある。	・メール作成・送受信の仕方が役に立った ・アクセスとパワーポイントは就職後活用していない方が多いが、アクセスは効率の良い業務を行う上で役に立っている。 ・ショートカットキーは業務の効率化に役に立っている。 ・マナー講習やグループワークなど、お手本に基づいて人前で面接の練習などができたのは、実際の面接を受ける際に役に立っている。 ・Google・Adobe Acrobat・CSVファイルの取扱い、インターネット、SNSの知識が学べれば良かった。 ・より実務に近いWindowsソフトの活用の仕方は、もっと時間を割いて教えて欲しい。 ・窓口での接客や電話応対など、事務の仕事についてもっと学んでおけば良かった。デジタル化が進んでおり、スマホやタブレットの操作方法など、これからもっと学んでいかないといけないと感じている。	・あいさつ、言葉使い、接遇は役に立っているという企業もあった一方で、電話や接客対応のスキルをより一層習得して欲しいと考える企業もあった。 ・エクセル、ワード等は即戦力として役に立っている。 ・あまり使用しないアクセスも含め、知っていることや機能が多いほど効率の良い業務の提案ができるので、幅広い知識は役に立っている。 ・PCとタブレットやスマホを連動して使える技術の習得をしておいて欲しい。 ・業務効率化に役立つ生成AIなどの最新ツールを使いこなせたりGoogleの翻訳機能など便利だと思われるものを習得しておいて欲しい。 ・基本的な社会人としての心得、常識的な物の考え方や採用に当たって重視している。 ・訓練修了者には配属部署によってPCの業務量に違いはあるが、基本的なスキルを身に付けていることを期待している（特にエクセル・ワード）	・ハローワークシステムを用いた定量的な効果分析（営業・販売・事務分野の求人5,157件におけるニーズ分析）の結果、エクセル・ワードは必須。メール、電話応対、ビジネスマナー等の知識習得を促進する必要があると分析した。 【パソコン等関係キーワードを含む求人】 パソコン（PC含む） 1,933件 入力（タイピング・キーボード含む） 1,636件 エクセル 1,627件 ワード 1,439件 基本操作 1,372件 システム（端末・専用含む） 671件 メール（Outlook含む） 304件 等 【事務系キーワードを含む求人】 電話 1,629件 経理（会計含む） 718件 客対応 276件 等	・訓練カリキュラムについては、よりニーズが高く実践的なスキルが習得できるよう時間配分を検討（業務で使用機会が多いエクセルの重点化を図る等）するとともに、ショートカットキー、ZOOM、翻訳ソフト、生成AI、社会人として必要なスキルであるビジネスマナー等の知識習得を促進し、訓練のレベル分けを推奨するなど、委託先等の募集の際、周知・勧奨を行うこととする。 ・受雇生の確保として、HP、SNS等を活用し周知を図り、ハローワークの職業相談窓口において雇用保険を受給していない方への周知を徹底するとともに、訓練担当窓口においては応募者のレベルに合わせた適切な訓練コースへのあわせんを行う。 ・就職支援として、訓練実施機関では面接時にも自己アピールができるようきめ細やかな就職支援を実施、グループワークや模擬面接等の活用促進、訓練終了後も就職支援を実施していることを周知する。ハローワークでは、訓練終了後3か月まで一貫した就労支援を行っていることを周知し、来所を促進し、就職支援ナビゲーターによる担当制による支援を強化するとともに、訓練終了時期を見込んで訓練コースにかかると一覽表を作成し、求人開拓時に活用する等、訓練修了者歓迎求人の確保に努め、業務に必要なスキルを詳細に明示することでミスマッチを防ぐ。 ・配慮を要する応募希望者には、その特性、配慮が必要な事項、支援機関等について本人了解のもと情報を共有するとともに、訓練受講及び就職活動について関係機関と連携して支援する。
39	高知	営業・販売・事務分 野	① 時代のニーズに合わせ、オンライン会議ツールやデータ共有方法の内容を含めたり、実務で活かせるWebや簿記の内容を取り入れた訓練を計画しており、他のIT訓練科との差別化を図るようにしている。 ② 近年、受講生が抱えるもの（持病・障害・家庭環境など）が複雑化しており、対応に専門的知識を要するものが増え、講師や職員の負担は以前より増加している。 ③ 維持費や講師の礼金等経費が値上がりしている中、奨励金の増額を検討してほしい。また、受講者の年齢が高くなってきており60歳以上の就職率の配慮をお願いしたい。また高齢者とともに障害者も増加しており就職率算定の期間や就職率除外等の配慮をお願いしたい。 ④ 訓練終了後、専用LINEを作成して、24時間体制で訓練生とコミュニケーションをとれる状況で対応したところ就職率向上につながった。 ⑤ WEB広告やCMなど多様な方へ周知できる手段を検討してほしい。 ⑥ 中には就労意識が低い方がいる。就職のための公共職業訓練であり、趣味や知識の延長として留るものではないことを認識してほしい。	① 現在従事してもらっている業務の半分は、Word・Excelを使用する仕事であるため、職業訓練で学んでいなければできなかった。事務職以外の技術職でもパソコンのスキルは重要である。 ② 事務職を募集する際、パソコンのある程度使える人でないとは採用できない。事務系の訓練を受講していれば、即戦力を期待できる。 ③ 採用する際には、Word・Excelは教えずにでもできるレベルであることが前提となる。また、パワーポイントを使用した資料作成やWeb会議ができるスキルも必要となっており、デジタル基礎力やマナー等は必須と考えている。 ④ 修了者は、自己流ではなく論理的・効率的なパソコンの使用法を学んでおり、より効率的に業務を遂行することを期待している。 ⑤ 現代はデジタル技術の活用が必須のためパソコンを使う力は必須。教えてくれたらできるは問題外。 ⑥ 受講生はWordやExcelの操作について説明する必要がなく、入力する内容について伝えるだけでよいため効率的。マナー研修も利用者に対する接遇や、職員間のコミュニケーションに役立っている。	構成員からは、職業訓練実施機関から、物価や人件費の高騰により訓練の委託費等の引き上げについて要望が出ているというワーキンググループの報告書に対して、委託費のような公定価格が最低賃金を下回る設定にならないよう検討してほしいとの要望があり、要望を踏まえ本番に報告する方針。	訓練校からの報告及びハローワークシステムを用いた定量的な効果分析を行い、各分野各訓練毎の関連就職率を公表している。	① 受講促進のため訓練内容や学校の特色を出し他校と差別化を図る。 ② 事務職では、Word・Excel・パワーポイントのスキル習得は必須。パソコンの基礎的活用術も必要であることを認識してもらう。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
40	福岡	介護分野	・「障がいの理解」について、訓練修了生からもっと深く学びたかったとの要望があり、また、講師からも時間を掛けて学んだ方が良いとの意見もあり、講義時間を6時間から9時間に変更した。 ・受講生が就職を検討する上で、自分が働きたい施設（特別養護老人ホーム、デイサービス等）を具体的に検討できるように企業実習を重要視しており、数十箇所の企業実習先を確保して企業実習を実施している。 ・講義や演習をどのように進めていくか、事前に説明して理解させた上で実施しており、講義後の振り返りシートにより、理解度や満足度を把握して次回開講の職業訓練に活かしている。	・講師が介護の現場を経験した方で、具体的な事例を聞くことができ、現在の業務に役立っている。 ・声掛けの仕方や言葉使いについて、看護師、介護士等、各講師の経歴により指導内容が異なる場合があり、場面によっては学んだとおりには上手く伝わらず、利用者との距離を感じてしまうことがあった。 ・職場実習において、入浴介助の見学だけではなく、実技の体験ができればありがたい。 ・実技は就職前に経験できて役に立ったが、受講生同士で行う場合は介助しやすいように相手に合わせてしまうことがあり、実際の場はもっと大変で、要介護者は体の踏ん張りが効かないことがほとんどであり、職業訓練の演習よりも大変な動作が必要であるなど、そこも訓練で体験できれば良かった。	・実際の現場では、利用者それぞれに合わせた対応が求められ、職業訓練で技能やコミュニケーションについてしっかり学んでいることが実践の場で生かされている。 ・自ら動く力、指示待ちで受身にならない、不明点は質問する等、一歩踏み出す力を習得することが望ましい。 ・職業訓練を通じて福祉業務を理解しており、就職後すぐに離職しない。 ・職業訓練の受講がない方も採用しているが、特に訓練修了生には介護の有資格者としての自覚を持って働いて欲しく、常に学び、向上心を持つことを期待している。	・なし	・修了生採用企業からの、訓練受講による就職の優位性を示す意見については、今後、ハローワークの職員間で情報共有し職業相談（受講あっせん）の場で活用する。 ・修了生及び修了生採用企業からの意見については、福岡労働局HPに公開することで訓練実施機関等に情報共有する。 - また、訓練実施機関に対して情報提供を行うことに加え、各機関（国・県・機構）が定期的に実施している公的職業訓練実施機関への訪問時には、直接訓練実施機関に対してヒアリング内容についての説明等を行い、現行の訓練カリキュラムの内容の検証を促す。
41	佐賀	デジタル分野	・システムエンジニアやプログラマーはチームで働くことが多いため、チームで課題解決を行う訓練を取り入れている。 ・県内企業におけるシステムエンジニアやプログラマーの求人が少なく、県外への流出も少なくない。誘致企業等県内企業とのマッチングを行いたい。 ・Webデザイナーは経験者有利で訓練修了だけでは就職が難しいが、県内の中小企業では、一人で事務も営業も社内DXも…と複数の仕事を任されることが多いので、事務や営業として採用されても、社内のDXの促進やHP更新も担える人材として活躍できるという企業ニーズに合った訓練になっている。 ・Webデザイン業界は、完全分業制で全ての工程を理解していることは有益であるため、企業において幅広くWeb関連技術を行うことができる訓練内容とした。 ・現場の声を多く盛り込んだ内容で講義を行い、資格取得のメリット、就職への考え方などの指導を行った。また、訓練で学んだことを求人者へアピールできるよう支援を実施した。 ・訓練後も役立つよう、基礎を学んだ後はエラーの対処の仕方、情報の集め方、学習する方法などを学んでもらっている。	・IT以外にもビジネスマナーなどに関するカリキュラムも充実しており、就職してから必ず役立つスキルを身につけることができた。 ・オフィスソフトも学ぶことができたので、Web系での就職は難しそうだが、事務など職の幅が広がった。 ・DXを学んだことで、業務改善や改革をするに当たり、考え方やその方法を知ることができた。 ・キャリアコンサルティングで自分を見つめ直し、今後の目標を立てることができた。希望の職種・職種に就職することができたのは、職業訓練で様々な経験ができたことが大きい。 ・もっと色々な種類の制作物を作って、どんどん添削してもらえる時間を増やしてほしい。	・訓練修了者はシステム開発の基本ができており理解もしているので、システム開発について詳しく説明しなくてもよい。 ・今後もDXは必要と思われるので訓練修了者を採用した。DX基礎や情報セキュリティの基礎が活用されるかもしれない。 ・仕事内容が事務関係なのでパソコンスキルは役に立っている。Webデザイン関係の基礎を学ばれているので広報誌の作成などもやってもらう予定。 ・採用にあたって訓練受講の有無は考慮しないが、資格などは考慮する。 ・知識や資格も当然必要だが、ビジネスマナー、コミュニケーション能力、意欲など総合的に考えて採用している。 ・DXについては、今まで手作業で行っていた定型化されたことを自動化して業務効率につなげている。	・企業のための人材に近づけるため、関連資格取得に対応した科目を設定する。 ・Web関連においては、幅広く業務を行うことができるよう、初心者から最新のWeb制作スキルを身につけられる科目を充実させる。また、全ての工程を理解したうえで基本スキルを習得するカリキュラムとする。 ・キャリアコンサルティングや就職支援において、資格取得のメリットや継続した学習意欲の重要性について意識付けを行う。 ・訓練内容を事前にしっかりと理解してもらうため、ハローワークで実施している訓練希望者向けの訓練説明会・相談会への参加を促す。 ・ハローワーク職員向けに訓練実施機関による訓練内容の説明を行うことで、訓練内容の理解を促進し、受講者の確保、求人開拓に活かす。 ・ハローワークにおいて、求人票の仕事内容欄を詳細に記載し、デジタルのスキルを活かせる求人情報を訓練実施機関に提供し、修了後の就職につなげる。	

令和6年度公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果等及び改善促進策（案）の概要

参考資料3

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
42	長崎	営業・販売・事務分 野	◇企業が注目しているSNSマーケティングに必要な知識や画像加工・動画編集の技術を身に付けることで、実務経験者にも負けない、戦力アップができる人材育成を行っている。 ◇操作の動画を記録し、放課後等の時間を使って繰り返し見て操作を覚えられるようにしている。 ◇受講生は多様な年齢、職務経歴であるため、全ての受講者が理解できるよう、日々工夫を繰り返している。 ◇受講生には常に就職を意識してもらうよう、どう働くのかなど考えてもらうようにしている。 ◇時間外対応になってしまったため、就職支援の時間増加の検討。時間外対応（経費）が訓練校の負担となっている。 ◇就職支援の時間は、応募書類作成や面接練習などがあり、キャリアコンを実施する時間を確保することに苦慮している。 ◇雇用保険の受給期間が長い、家族の扶養に入っている等の理由で、早期に就職する意識が薄い受講生、自分の条件に合う求人にこだわりすぎ活動が進まない受講生がまれにあり、対応に苦慮している。 《国への要望等》 ◇テキスト代の上限金額や受講者1人あたりの委託費などの見直しが必要。 ◇最低委託料の設定。（開校前に辞退者あり） ◇求職者支援訓練ならではのカリキュラムの自由度や、短時間・短期間などの多様な訓練を組むことができれば、差別化ができ、受講者へのアピールができると思う。 ◇ジョブカード講習のような、受講すればキャリアコン可能な制度を作ってほしい。 ◇訓練終了後、病気やけが等（妊娠・出産）で就職活動ができない受講生がおり対応に困っている。就職率算定の際の数から除外してほしい。【独自】（訓練実施および就職支援における問題点、課題等。） ◇受講生集めは引き続き訓練校としての課題である。 ◇受講希望者数が少ない。ハローワークに出向く人が現在はかなり少なくなり、未就職者に訓練実施が知られていない。	《役に立ったもの》 ◇Word、Excel、PowerPointなどパソコンスキル（多数回答あり） ◇ビジネスマナー（メール）、パソコンの概論、印刷 ◇簿記、給与計算、電卓、FP基礎、ビジネス法務 《活用されなかったもの》 ◇特になし（3名） ◇ホームページ作成、PowerPoint（2名） ◇コンピュータ概論 ◇Word、Excel ◇簿記、給与計算、税法、パソコン会計など 《訓練で学んでおくべきであったもの》 ◇ビジネスマナー（電話でのやりとり、話し方等） ◇メールの文面作り ◇Excel（応用、関数、ピボットテーブル） ◇Officeのアプリ版、Web版の違いなど ◇エアレジに関する知識 【独自】（ご意見・ご要望） ◇スキルUPの大切さを感じた。もっと周知いただき機会を増やして欲しい。 ◇3ヶ月で色々な事を勉強しないとイケなかった為、学ぶスピードが早く感じた。もっとゆっくり確実に勉強するには期間を長くして欲しい。 ◇受講する前は消極的でしたが、気の合う友人もでき、楽しくスキルを身につけることができた。受けてよかったと思う。 ◇社会人としての心掛けを厳しくも優しく教えていただいた。職業訓練を受ける事ができて良かったと感謝している。	《役に立っているもの》 ◇パソコンスキル（office）。 ◇コミュニケーションスキル。 《より一層習得しておくことが望ましいもの》 ◇コミュニケーションスキル、ビジネスマナー。 ◇デザイン、文書作成等（掲示するチラシ、インスタ、HPに活用する為） 《採用について未受講生との比較》 ◇基礎的なパソコンスキル。 ◇即戦力（一から教えるのと違う。簿記や会計ソフト、仕事が入りやすい） 【独自】（採用にあたり、職業訓練を受講していることや習得したスキルを考慮したか。） ◇PCスキル（特にエクセル、ワード）を考慮する。他にはアクセスまで使えたと尚良。 ◇取得とした以外のスキルも重視した（職務経験など）。 ◇考慮した（2件） 【独自】（今回、訓練修了者の採用を決めたポイント。） ◇パソコンスキル。 ◇コミュニケーションスキル、人間性。 ◇マッチング（条件相違がない）部分をポイントにしている。 ◇即戦力、技能、技術等の指導のしやすさ。	特になし	・職業訓練実施機関も含め、県・機構・ハローワークで得た情報をカリキュラムに活かせるよう連携を図る。 ・パソコンの基礎全般の知識・技能の習得はもとより、多くの産業で汎用的に対応できるスキルについては、カリキュラムに出来るだけ組み入れる。 ・カリキュラムについても、受講する側がより理解するような時間割等を作成する。 ・制度の的確な説明やリーフレット等による周知はもとより、労働局におけるホームページ・SNSでの周知を実施し、ハローワークにおけるSNSによる周知について検討する。また、令和5年度において実施した訓練体験イベント（ハロトレフェス）は、一定周知の効果があったと考えており、令和6年度も実施予定であることから令和6年度の結果を踏まえ、今後も効果的なイベント等の実施について検討する。 ・企業に対して訓練内容（修了生の仕上がり像など）の周知を行う。また、当分野のスキルを活かせる職種の提案を行い求人確保することにより修了後の就職につなげる。 ・ハローワーク職員を対象とした訓練施設見学を行うことで訓練コース理解を促進し、受講者の確保、適切な受講あっせん、求人開拓（求人条件変更含む）に活かす。見学の際は訓練施設と意見交換を行うなど、訓練中、修了後の早期就職実現に向けた支援を行うため訓練施設との連携を図る。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
43	熊本	デジタル分野	・実践形式の課題を作成し、仕事のイメージを持てるようにしている。 ・入校時からワークショップを行い、訓練修了までの目標を自ら定め明確にしている。 ・理解度アンケートを実施し、学習進捗を把握することで必要なフォローアップを行っている。 ・生成AI等の最新技術やツールを学習に取り入れ実践的なスキルの習得を支援している。 ・プログラミング等の専門科目だけでなく、関連科目や基礎的なパソコンスキルを学習することで幅広い職種への挑戦を可能としている。 ・パソコントラブル対応、プログラミング、セキュリティなどのカリキュラムを導入している。 ・訓練修了後も自己研鑽の重要性、学び続ける意識付けを行っている。 ・汎用性のあるC言語を先に習得させ、就職したい分野や職種に応じた他の言語の知識も習得できるよう工夫している。 ・知的財産権の各権利について取り入れている。 ・クラウド関連の利用やアプリケーションを取り入れている。 ・キャリアインサイトを利用した自己理解や職業理解を深めたうえで、ハローワークインターネットサービスの求人情報を活用し、受講生が自律的に今後のキャリアビジョンを描けるよう支援している。 ・定期的なアンケート調査で状況の変化や活動状況を把握している。 ・訓練に必要な経費が高騰しているため、受託料や奨励金の見直しをお願いしたい。 ・PC貸し出しに係る費用等の支援を充実して欲しい。 ・就職支援経費の就職扱いについて、柔軟な取扱いを要求します。 ・医療や介護福祉分野など社会的ニーズが高い分野のも経費支援の拡充を希望。	・スキルでクラス分けをしてもらったため、自分に合った学習ができ、エクセル1級の資格取得が出来た。 ・学んだことで無駄なものはなかった。 ・業界標準ソフトで動画編集スキルを学びたかった。 【就職後に立っているもの】 ・PC基本操作、ビジネスマナーでの円滑なコミュニケーション能力、エクセル関数、ファイル管理、Web関係の用語や仕組み、OSやハードウェア・クラウドの基礎知識、イラストレーター、フォトショップ、ITパスポート ・デザイン作成の知識と試験対策で行ったデザイン作成演習 ・HTML、CSS、Javascriptを使用したコーディングスキル ・マーケティング 【就職後にあまり活用されなかったもの】 ・Access（業務での使用が無い）、PHP（業務での使用が無い）、マナー講座、HTML、CSS、Wordpress、プログラミング（職種が違った） 【学んでおくべきであったと感じたスキル等】 ・ビジネスマナーで「電話」「来客対応の言葉遣い」の実践練習 ・Access上級レベル、ネットワーク、電子名刺スキル、Javascript、VBA、カラーコーディネート ・Gitを用いたファイルのバージョン管理、ビジネスメールの基本 ・生成AIになれておく ・ディレクション力、デザイン力がアップ出来るカリキュラム	【就職後に立っているもの】 ・エクセル、ワード、パワーポイントのスキルがあり、業務で話をするのに時間を要せず助かった。 ・様々なPC作業に慣れているので、すぐに活かしてもらっている。 ・訓練で学んだソフトを活用し、分かりやすく洗練された掲示物等が作成されており、デザイン作成演習が活かされている。 ・画像系ソフトのスキルやツールの使い方が役立っている。 【より一層習得しておくことが望ましい技能等】 ・ポスター及びHP作成の上級スキル ・画像ソフトの更なるスキル ・デザイン力を向上するプログラム ・基本的なビジネススキル、コミュニケーションスキル、受電のスキル 【訓練修了者と未経験者と比較して期待すること】 ・自身のスキルアップのために学ばれるというスタンスが前向きでポジティブ。前向きに学ぶ気持ちを期待。 ・Web等を学んでいるので採用職種だけでなく任せることが可能となる。 ・即戦力となっている。訓練で習得したスキルを今後業務にどのように生かせるか、活用能力に期待している。 ・知識があるとスムーズに理解してもらえ、指導者の負担の軽減やOff-JTの時間短縮も期待される。	訓練実施機関3、訓練修了者6、修了者採用企業6に対して対面によるヒアリングを実施することとしていたが、訓練修了者のヒアリング候補者からの了解が得られず、効果・検証のとりまとめのスケジュール等を考慮した結果、一部アンケート調査に切り替えて実施した。 訓練実施機関4機関は全て対面によるヒアリングを実施。訓練修了者は4名は対面によるヒアリングを実施。アンケート調査は、19人に送付し5名から回答あり。 採用企業は3社については対面によるヒアリングを実施。アンケート調査は、訓練修了者からアンケート回答があった5名の採用企業5社に送付し、3社から回答があった。 結果、訓練実施機関4機関、訓練修了者9名、採用企業6社に対して調査を実施した。	・最新のAIツールや技術の習得等、現状にあった訓練内容のアップデートを推奨する。 ・パソコン基礎全般の知識・技能習得と多くの産業で汎用的に対応できるスキル習得についてカリキュラムに組み入れることを推奨する。 ・年間で訓練内容、募集定員、開講時期や開講場所の偏りがないよう訓練の設定を検討する。 ・訓練内容がより分かりやすいものとなるよう、受講案内/リーフレットの見直しを行う、各種SNS等を利用した情報発信を行う等公共職業訓練周知の強化を図る。 ・適切な訓練コースの選択をするために、訓練希望者の訓練内容理解は不可欠であり、窓口相談における職員の訓練内容理解も重要であるため、訓練実施機関による説明会を継続・充実させ、積極的な参加と情報収集を勧奨する。 ・訓練内容の理解を深めるため、訓練実施機関による訓練希望者向けの見学会やHW職員向けオンライン等説明会の実施を勧奨する。 ・HW訓練窓口、HW求人部門、訓練実施機関が連携した求人確保と情報共有による就職支援を強化する。 ・基本的なビジネススキルやコミュニケーションスキルの学習を取り入れるカリキュラム設定を推奨する。

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
44	大分	営業・販売・事務分 野	・訓練生と信頼関係を構築することによりスムーズに就職支援ができて いる ・基礎的なＩＴリテラシーを身につけることができている（情報モラ ル、SNS、パスワードの設定等） ・取得目標の資格や訓練の目的への理解が十分ではなく、就職に繋がら ない場合がある ・訓練生の希望と講義のボリューム（難易度）にミスマッチがある ・事務職でも対人業務の可能性があるため、事務におけるコミュニケー ションはとれる必要がある ・精神障害（疑い含む）や就職にあたり配慮すべき点がある訓練生が訓 練修了後就職に繋がらない	・基礎的なPCの知識を活かした（訓練で 習得したExcel、Word等の知識を活かす ことができた） ・就職後に使用する基礎的なスキルを再度 学ぶことができた（接遇、電話対応、ビジ ネスメール等） ・地域や時期、コースの難易度等職業訓練 の選択肢が多いと受講しやすい ・短期間で資格取得を目指すため人によっ てはハードなものだった（訓練についてい けず退校した方も） ・接遇／電話対応／ビジネスメール等や面 接練習／応募書類等、適切な時期に実施を してほしい	・事務を行ううえで必要となる基礎的な知識が役 に立っている（Excel、Word、プレゼンテー ション等） ・経理部門として採用したため簿記の知識は役に 立っている（請求書処理、データ入力等） ・公的職業訓練の認知がなく、訓練の修了が求職 活動時のアピールにならない ・就業する上で接遇や電話対応など基礎的なスキ ルを備えてほしい ・資格取得の実績があるとスキルレベルがわかる ・電子申請やＤＸについて知識があると採用後に 役に立つ	・特になし	・訓練コースのレベルを差別化し、今後の訓練計画に反映す る（4か月の事務コースを5か月に延長し、より高度なスキ ルの習得を目標とするコースを設定→3か月コースとの違い を明確化する） ・ＩＴリテラシーを意識した訓練カリキュラムを設定するよ う実施機関へ依頼する（国の方針に沿い、各企業におけるＤ Ｘ推進や電子申請等の理解を深めるカリキュラムを設定） ・訓練に対する求職者の理解を促進する（求職者が自身の ニーズに合った訓練を選択できるよう適切な情報を提供す る） 【例】訓練募集チラシに、目標とする資格や就職先の業務イ メージについて明記する ・企業の求める人材に近づけるように、ビジネスマナーやコ ミュニケーションを中心とした訓練カリキュラムを効果的に 実施するよう、実施機関へ依頼する（各カリキュラムを訓練 生の状況に応じて、より適切な時期に行うよう配慮する） 【カリキュラム例】アサーション（他者を尊重した自己表 現）トレーニングやグループワークなど ・公的職業訓練の認知度を向上させる（公的職業訓練を修了 することが採用企業にとってインセンティブとなるよう広報 活動を推進）

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の 訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見		
45	宮崎	営業販売事務分野	○訓練実施機関（5団体） ・現在の情勢に伴い企業ニーズの求めているITリテラシーを重視した内容（対応）で実施しており、今後は併せてセキュリティへの基礎知識等も必要と考える。 ・採用後のチーム（組織）としてのポテンシャルも必須と考えるも、就職活動から鑑みると就職への意欲に実施する側との温度差がある（充足率への影響）。 ・物価高騰の中、設備・人件費・広告費等を踏まえ、今後の委託料、奨励金等の保障への見直し。 ・宮崎においては、訓練内容が類似しているコースが多いため募集時期も重複しやすいため考慮して欲しい。 ・訓練開講時に当たり、希望者への事前周知説明（目的、内容等）が的確でない、受講後半への就職意欲が他受講生へのモチベーションへ影響がある。	○訓練終了者（9名） ・前職において研修制度等がなかったため、基礎的なことから学べ就職活動に自信が持てた。 ・実習制度があることで、面接前の対策や事前の社風も知ることが良かったが、もっと実習期間や企業数を増やして欲しい。 ・採用後の事を踏まえると、今後、企業が求めているSNSやオンライン活用に活かせるような内容を多く取り入れるべきでは。 ・もっと訓練に関する内容を民間企業へ直接訪問し周知を図ることが効果的では。 ・資格取得目的に特化せず、採用後の部署転換も考え、コミュニケーション（会話や接し方）も重要視して欲しい。	○採用企業（8社） ・仕事に対して自主性を感じられる方もいるが、業務スキルに対して基礎以上に常に適度なアップデートが必要なことも事前に知っていて欲しい。 ・資格取得に関して採用時には必要であるが、他業務への対応も必要であることから、資格だけを重視してはいない（実践的な面を訓練強化）。 ・企業側が訓練機関を訪問（見学）することで、訓練生の実態（姿勢）を予め知ることができる（企業側が実施機関で会社説明会（終了後採用された方の講話等）ができると良い）。 ・もっと、コミュニケーション、社会人マナーを学んで欲しい（採用後の研修〈リ・スキリング〉に対する姿勢のため）。	・特段なし	・ビジネスマナーや社会人の心得、コミュニケーション能力の向上に関する事項は、企業・受講者共に関心が高いことから、今後実施機関に対しカリキュラムに組み込むよう促す。 ・ITリテラシーに関するスキルアップ、セキュリティに関する知識取得に向けたカリキュラムに取り組むことを推奨していく。 ・企業への訓練理解促進も踏まえ、企業による実施機関見学会の実現に向け環境整備や訓練中の企業説明会を実施することで、企業・受講生双方の橋渡しとなる実習等への促進を図るよう実施機関へ促す。
		※効果検証ヒアリング計画ではありませんが、委員からの意見より今後、検証していく分野であるかの検討項目として、別途実施した分野 介護・医療・福祉分野	○訓練実施機関（1団体） ・福祉に関する幅広い知識や業界について学ぶべき事が多岐にわたるので、現職の講師が、相談、情報提供、アドバイス等常時対応している。一方で、やむを得ず欠席により補講となった際、自費となるため補助的な見直しがあると良い。 ・コロナ禍により実習カリキュラムが減少したが、就職した終了者や施設担当者からの講話等を新たに取り入れたことで、現場の生の声を発信することができた。 ・就職意欲に温度差があるため、積極的な就職支援強化を図っている（早期相談、自主的な施設職場見学）	○訓練終了者（3名） ・全てのカリキュラムに実技、実践的な内容が盛り込まれていて就職に活かされている。 ・施設での職場実習が少ないと感じた。 ・次への資格取得への目標ができた。 ・就職活動のための、施設情報や採用になった修了生の情報をもっと知りたかった。	○採用企業（1社） ・資格なしで経験ある方は資格取得後、すぐに夜勤へのシフトへも対応できるので大きな戦力となっている（採用する条件としての年齢的な面も問題ない）。 ・訓練での実習内容と現場とのレベルにお互い戸惑っている事が多い。 ・福祉に対する入り口（心構え）をしっかりカリキュラムに取り組んで欲しい。 ・本来、経験者を決め手としているが、人手不足である現在は、人材確保を優先しているのが本音であり、技能は実践の中で育成していく。 ・従業員の不安解消に向け、より業務内容と賃金の差、福利厚生面等の環境整備の充実を図り、良好な人間関係構築を図るよう努力しているが、事前にある程度業界のイメージが出来ていると尚良い。 ・外国人留学生在が受講できる制度になると良い。	・特段なし	・三大介護（食事・入浴・排泄介助）の基礎的な知識習得や実践（実習）について、引き続き推奨していくと同時に、特に実習受け入れの充実化を図るための理解を企業側に積極的な周知啓発に取り組んでいくことを実施機関へ促す。 ・福祉・介護業務以外での社会人の心得、コミュニケーション能力の向上に関する事項は、企業・受講者共に関心が高いことから、今後実施機関に対しカリキュラムに組み込むよう促す。
		※効果検証ヒアリング計画ではありませんが、委員からの意見より今後、訓練に反映させることが可能な検討するため、別途実施した分野 半導体関連企業			○ヒアリング企業（5社）※コンソーシアム参画企業へ依頼 ・半導体全職種において人材育成のスキームが下火になっていた影響があり不足している。 ・特にオペレーターの人材（人手）不足であり、労働条件も24時間、365日稼働が一つの要因となっている。 ・若年層であれば、経験がなくとも訓練で社会人の心得（マナー）の基礎的なものがあれば、採用後の研修（メンター制度等）で問題は無い。 ・機械設計、CAD等の基礎的な終了者であれば、電気回路に関する知見も含まれるため必要はある。 ・実施機関として受け入れ（職場実習的な）、いい人材がいれば自社採用できる事も可能で、人材確保、育成に繋がる。 ・基礎的な知見があるに超したことはないが、現場とのギャップを感じる可能性がある。	・特段なし	○今回のヒアリングに対する見解 ヒアリングを行った半導体関連企業においては、中途採用に関しては社内教育が充実していることもあり、半導体に関する知識、経験等について必須としていないと考えられる。また、社内教育を視野に入れ年月をかけ技術者を育成していくことから、半導体に関するスキルについて訓練内容に反映出来る知識や技術は確認できなかったものの、CAD、電気、機械、情報処理、システムエンジニアの基礎知識があるとよいとの回答を得られた。 これらの知識はポリテクセンター施設内訓練のCAD・NC加工科や電気設備技術科、求職者支援訓練や委託訓練でのIT分野（情報処理、エンジニア）の訓練において実績があり、多くの企業が求める社会人としての心得やビジネスマナーにおいても職業訓練によって知識を習得出来る部分もあるため、今後、職業訓練を計画・実施するにあたり時代やニーズに合わせた訓練内容の見直しや定員充足に向けた取り組みが必要である。

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) ヒアリング以外の手法での効果検証	(f) 訓練カリキュラムの改善促進策（案）の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見		
46	鹿児島	介護・医療・福祉分野	・就職後に即戦力として働けるように、可能な限り実技の時間を設けるようにしているほか、指導内容に偏りが出ないようにするため、実施機関で雇用している講師だけでなく外部講師を招いている。また、外部講師も介護現場の最前線にいる方を招聘し、現在の介護現場の実情やトレンドを受講生に伝え、現場を理解してもらうよう工夫している。 ・近年は介護機器を導入することで、介護士の負担を減らし、直接的なケアを増やす場面が増えてきているため、最新の介護機器をレンタルし、介護の現場の変化や最新の情報を提供している。 ・試験前対策講座や勉強会を実施し、資格取得への意欲の向上に努めた。 ・受講生の背景や勤務希望エリアを踏まえた求人情報提供のほか、ハートピアや介護センター等の社会資源見学や履歴書・職務経歴書の作成やジョブ・カード活用のアドバイス、面接練習等の支援を実施し、就職への意欲喚起を図っている。 ・ハローワークと情報を共有するなど、連携を図っている。 （以下、訓練実施機関からの要望） ・職業訓練の実施にあたっては、外部講師の招聘、コロナ等の感染防止対策、セキュリティの確保のための施設の維持管理等に相應の経費が必要である。さらに、物価高騰や人件費の上昇によって、訓練実施機関の経営への影響も生じていることから、訓練委託費、認定職業訓練実施奨励金について、所要の見直しを行ってほしい。 ・県、機構、ハローワーク等がアンケート、職業相談等で把握した受講生から訓練実施機関への要望、意見、苦情等について詳細に教えてほしい。 ・介護の魅力や現状、今後など、若い世代や異業種から転職を考えている人に興味を持ってもらえるような広報活動を積極的に行ってほしい。	・講師の方から現場の様子や状況に応じた様々な事例や症例を聞いたり、介護動作を体験できたことが、役に立っている。 ・利用者とのコミュニケーションの取り方、接遇、移乗介護、トイレ介助について、習得したスキルが就職後も役に立っている。 ・訓練では健常者を相手にするが、現場では高齢者を相手にするため、感覚がつかみにくいところがある。 ・食事介助、入浴介助、経管栄養のいろいろなパターンに対応した方法、利用者の体調不良を素早く察知するための知識について学ぶことが出来れば良かった。	・介護現場においては24時間365日全員で協力しながら仕事を行うためコミュニケーション能力が非常に大切であり、利用者に対しても「対人」となるため、そのスキルが非常に大切だと考えている。 ・授業と現場とでは温度感が大きく異なるため、現場の様子を積極的に伝えていることが受講生のためになっていると思う。現場に行くかどうかでもカルチャーショックが発生してしまうため、いかにそのギャップを小さくするかが大切だと考えている。 ・オムツの着脱、入浴介助の方法、高齢者の身体的特徴（関節部など）の把握とケアの方法、ホディメカニクスについては、訓練である程度習得しておいていただけるとありがたい。 ・入社してから学ぼうとしていく姿勢が大切だと考えている。 ・訓練受講生は、資格の必要性を理解しているため上位資格取得の意欲が高いと感じる。	・特になし	・対人スキル、コミュニケーション力は、業種・職種を問わず重視されており、引き続き職業人講話においては訓練修了者や採用企業を含め、外部講師の効果的な活用を促すものとする。 ・介護事業者による説明会の実施などにより、イメージアップを図り、介護・福祉の現場への仕事理解を促すものとする。 ・訓練実施機関とハローワークの連携強化を図るとともに、修了後の人材像を踏まえた求人開拓、職業紹介を実施するなど、きめ細かな就職支援に取り組むものとする。 ・求められる訓練内容については、労働局、県、機構、訓練実施期間で共有していく。 ・ジョブ・カードは、訓練受講による成果の可視化に加え、「生涯を通じたキャリア・プランニング」及び「職業能力証明」のツールであることから、引き続き、求職者だけでなく在職者に対しても、活用の促進に取り組んでいく。
47	沖縄	「理容・美容」分野	【訓練実施にあたって工夫している点】 ・現場ですぐに使える人材を目指して、技術だけでなく、働くことの意味や人生設計についても一緒に考えている。 【訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況】 ・月1回外部のキャリアコンサルタントを呼んで対応している。 【訓練実施にあたっての国への要望、改善して欲しい点】 ・委託費が上がらない現状で経費が圧迫している。 【訓練生が受講前に備えて欲しいことは？（独自質問）】 ・卒業後の働き方や現状について、事前に訓練実施機関のセミナー等を受講することで、受講前に分野の知識をつけ、目的を持って受講を検討して欲しい。	【訓練内容のうち就職後に役に立ったもの】 ・全て役に立った。 ・外部講師としてサロンを経営しているオーナーから、顧客のお出迎えから見送りまでの流れ等の実務的な話が聞けて役に立った。 【訓練内容のうち、就職後にあまり活用されなかったもの】 ・特になし 【就職後に感じた、訓練で学んでおきべきであったスキル、技能等】 ・特になし 【キャリアコンサルティングの効果・改善点について（独自質問）】 ・就職先を選ぶにあたって、分野に特化したアドバイスをして欲しかった。 ・あまり必要ないと感じた。 【訓練開始前から希望の働き方は決まっていたか。決まっていなかった場合、どの段階で決まったか（独自質問）】 ・決まっていなかった。時間と曜日が合わず、仕方なく違う仕事を探した。 【訓練期間は適切であったか（独自質問）】 ・学科の時間が足りないと感じた。	【訓練により得られたスキル、技能等のうち、採用後に役にたっているもの】 ・基本的な手技は習得しているように感じる。 ・技術は就職してからでも磨いていけるが、心構え等が備わっていないと短期間の離職に繋がる。 【訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技能等】 ・社会に認められる身だしなみ、接客スキル、電話応対等の社会人としての基本的なスキル。 ・筋、筋肉、骨等の身体に関する基礎知識を習得していると、就職した後に教えずらい。 ・持っていると有利な資格は「化粧品検定」 【訓練修了者の採用について、未受講者（未経験者）の採用の場合と比較して期待していること】 ・技能の基礎を習得している。 ・正直に言うとなし。	「理容・美容」分野を選定した理由として、公共職業訓練（委託訓練）と求職者支援訓練の就職率には大きな差（32.9ポイント差）があることから、公共職業訓練のいいところを求職者支援訓練に取り入れ、ひいては分野全体の就職率改善を目指す、としていたところ、ハローワークシステムにより、その他就職率（雇用保険適用とはならない働き方等を含む就職率）を比較したところ、依然として公共職業訓練（委託訓練）の方が就職率が高いものの、差が縮小（8.3ポイント差）することが分かった。 結果、「理容・美容」分野の訓練修了生においては、フリーランス等の多様な働き方が多くあることが判明した。	・知識習得、検定試験対策のため適切な訓練機関を設けるよう実施機関に提案する。 ・多様な働き方に対する理解促進のため、職業人講話、職場見学等のカリキュラムを追加するよう実施機関に提案する。 ・即戦力として活躍出来るよう、理容・美容業界に求められる身だしなみ、接客態度、コミュニケーション等のカリキュラムを強化するよう実施機関に提案する。 ・キャリア形成・リスキリング推進事業との連携により、訓練実施施設以外においてもキャリアコンサルティングを受ける機会を設ける。 ・多様な働き方を踏まえ、受講あっせん・指定求所日等におけるハローワークのキャリアコンサルティングを強化する。 ・公共職業訓練（委託訓練）の委託費、認定職業訓練実施奨励金の単価アップ等を厚生労働省へ報告する。